



14.21

310

南滿洲鐵道  
 株式會社  
 産業試驗場要覽  
 大正三年三月

始



142  
27

大正三年三月

南滿洲鐵道  
株式會社  
產業試驗場要覽

頁	正	誤
口繪	三枚目熊岳城分場全景下段説明ノ「苗圃」ハ	
二	「苗圃」ノ誤	
四	「試種」ハ「試驗」ノ誤	
三	終行「土壤」ハ「土壌」ノ誤	
四	一「壤土」ハ「壤土」ノ誤	
二四	十「下屠期四月三日」ハ「四月三十日」ノ誤	
二六	六「各種ノ次」ハ「作物」ヲ「ノ」三字ヲ加入ス	
二九	二「秤重量」ハ「三〇・八ニ」ハ「三〇・三」ニ	
三〇	八「三」ノ誤	
三〇	三「ゴキル」ヲ「ゴキル」ニシテ「ゴキル」ニ	
三〇	レ「ン」ノ誤	
五四	下「段年」ハ「二年生」ノ誤	
五七	終行四「地方」ノ下ニ「標」及「ノ」二字ヲ加入ス	
五八	終行上「段」コ「ノ」ヲ「ハ」ニシテ「コ」ヲ「カ」	
六二	上「段」ハ「ノ」ノ誤	

寄贈本

緒言

本要覽ハ當課所屬産業試驗場苗圃並ニ各經理係所屬苗圃等ニ於テ從來施行セル事業ノ狀況及其成績ノ概要ヲ蒐録シ以テ當事者ノ參考ニ資セントスルモノナリ

大正三年三月

南滿洲鐵道株式會社  
地方課

大正  
3. 5. 12  
寄贈

南滿洲鐵道株式會社產業試驗場要覽

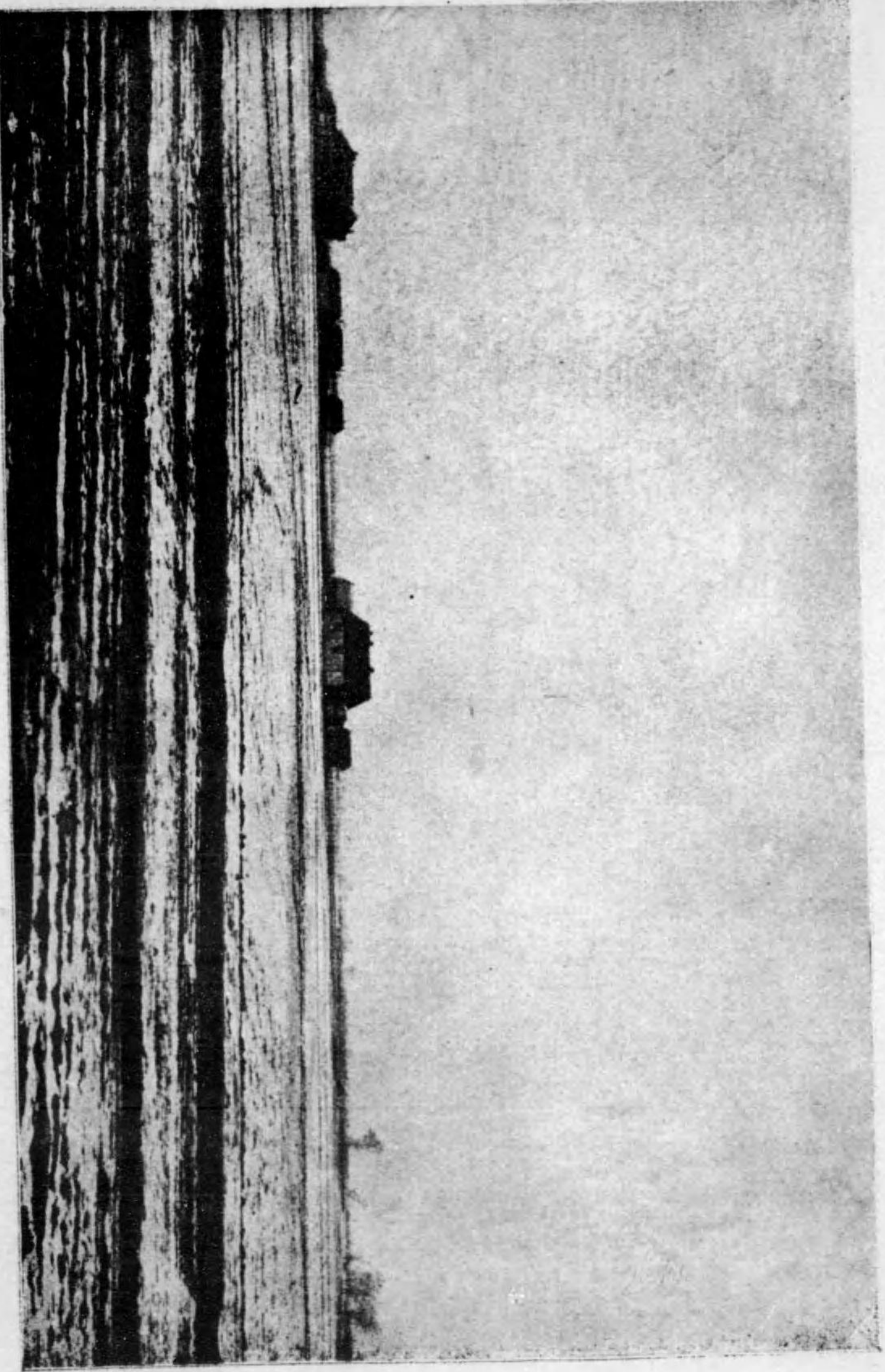
第一章	沿革	一頁
第二章	目的及所在地	二頁
第三章	土質並氣候	三頁
第四章	土地建物	六頁
第五章	諸規程	一〇頁
第六章	事業要目	一四頁
第七章	事業成績	二二頁
第八章	職員	七〇頁





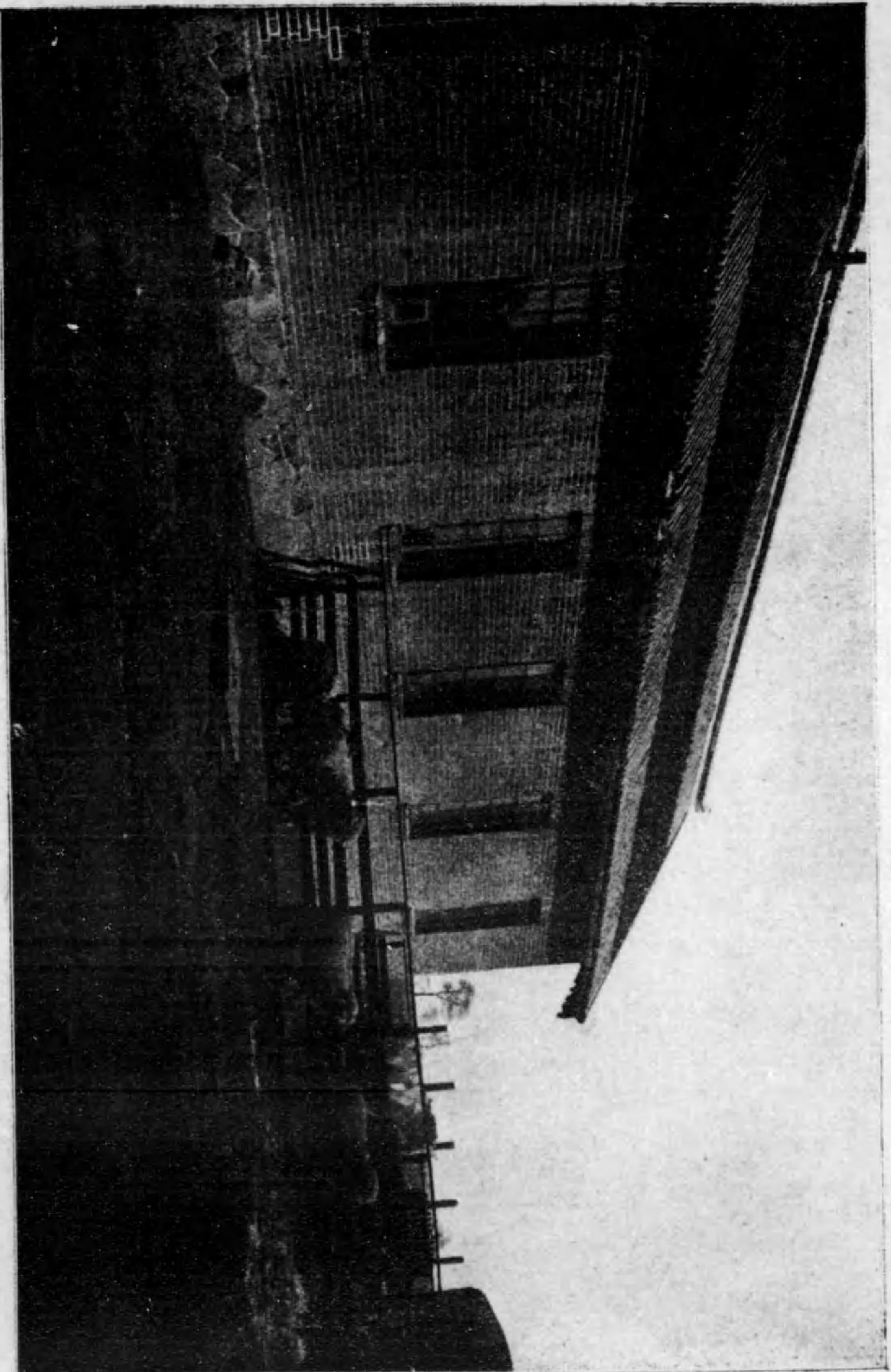


景全場本嶺主公場驗試業產



餘坤萬一十積面總設創月四年二正大內地屬附道鐵嶺主公，地在所

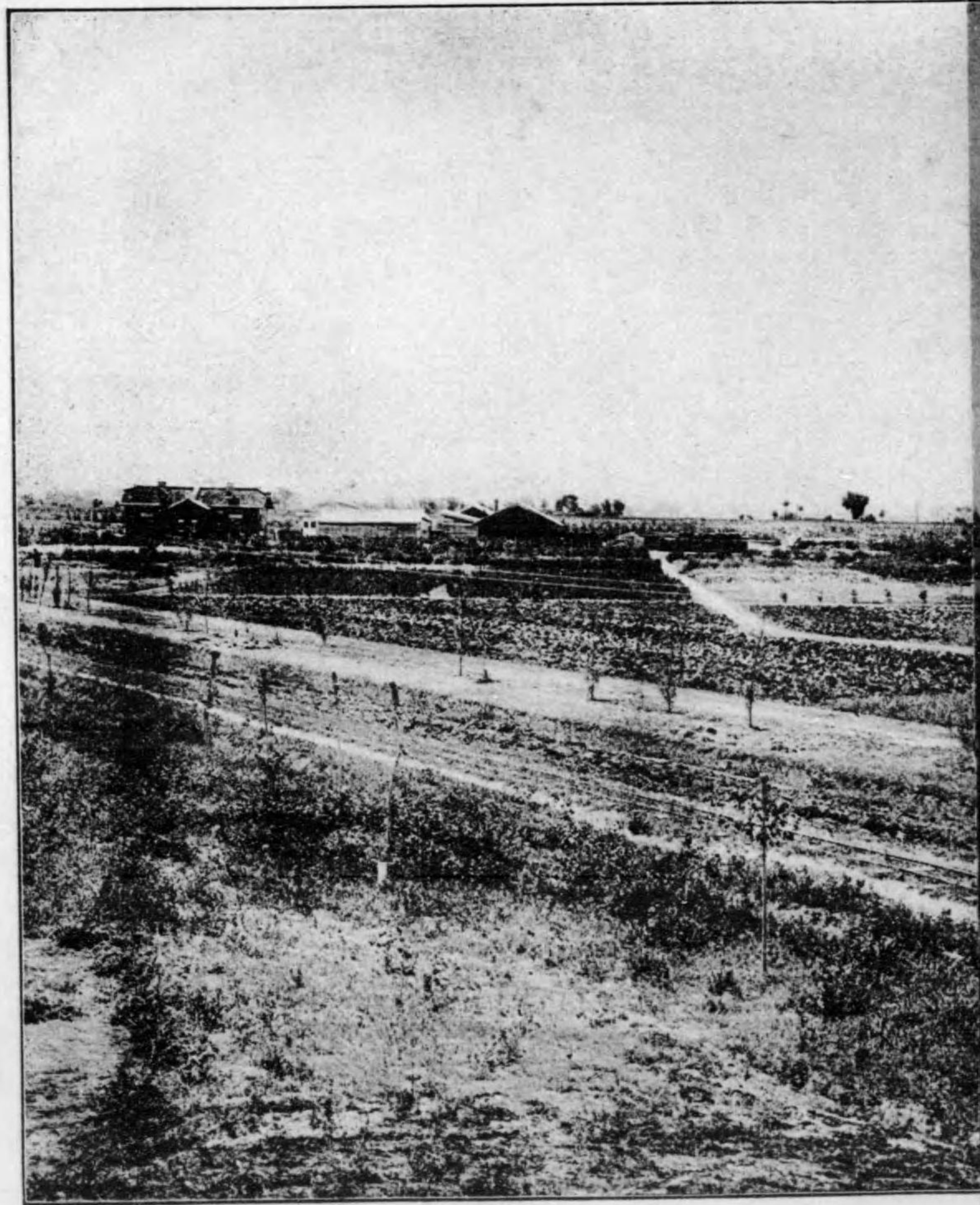
畜羊牧場本嶺主公場驗試業産



種ソウリスウサ及ニヤシナコロムシノリメーレーアソラ種國外ハ類種羊類

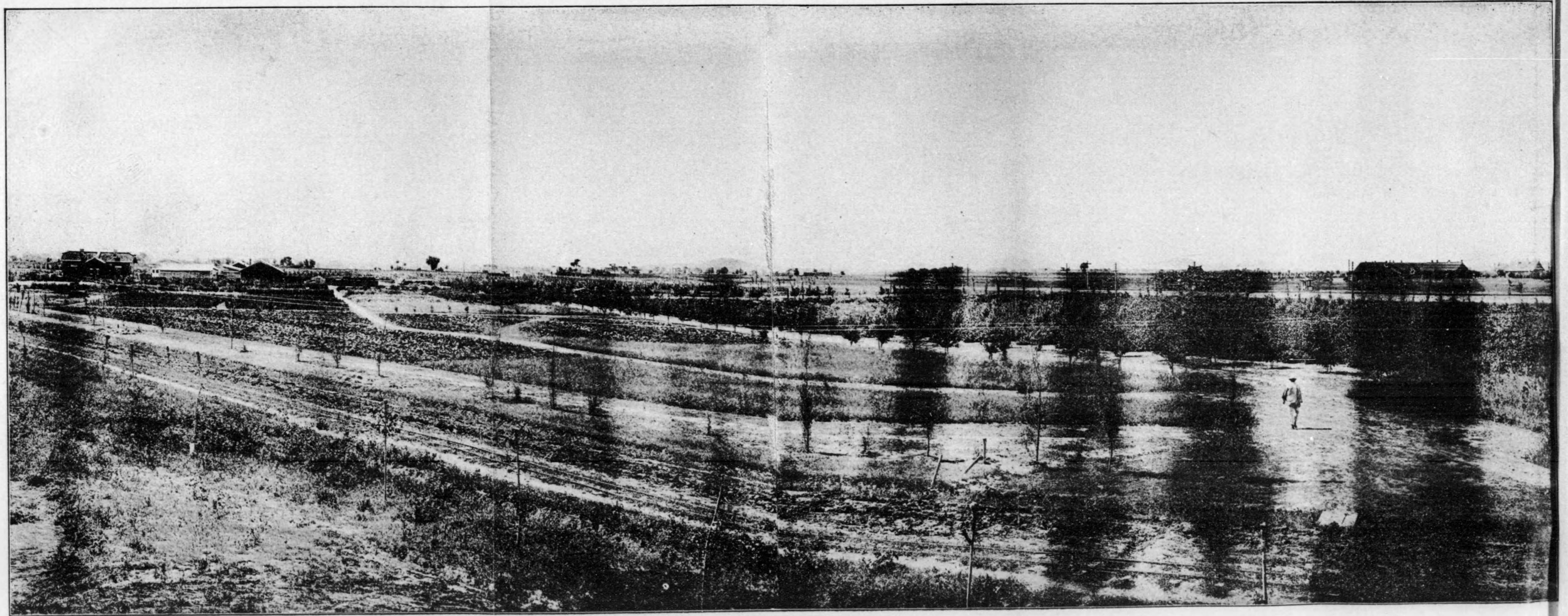


景 全



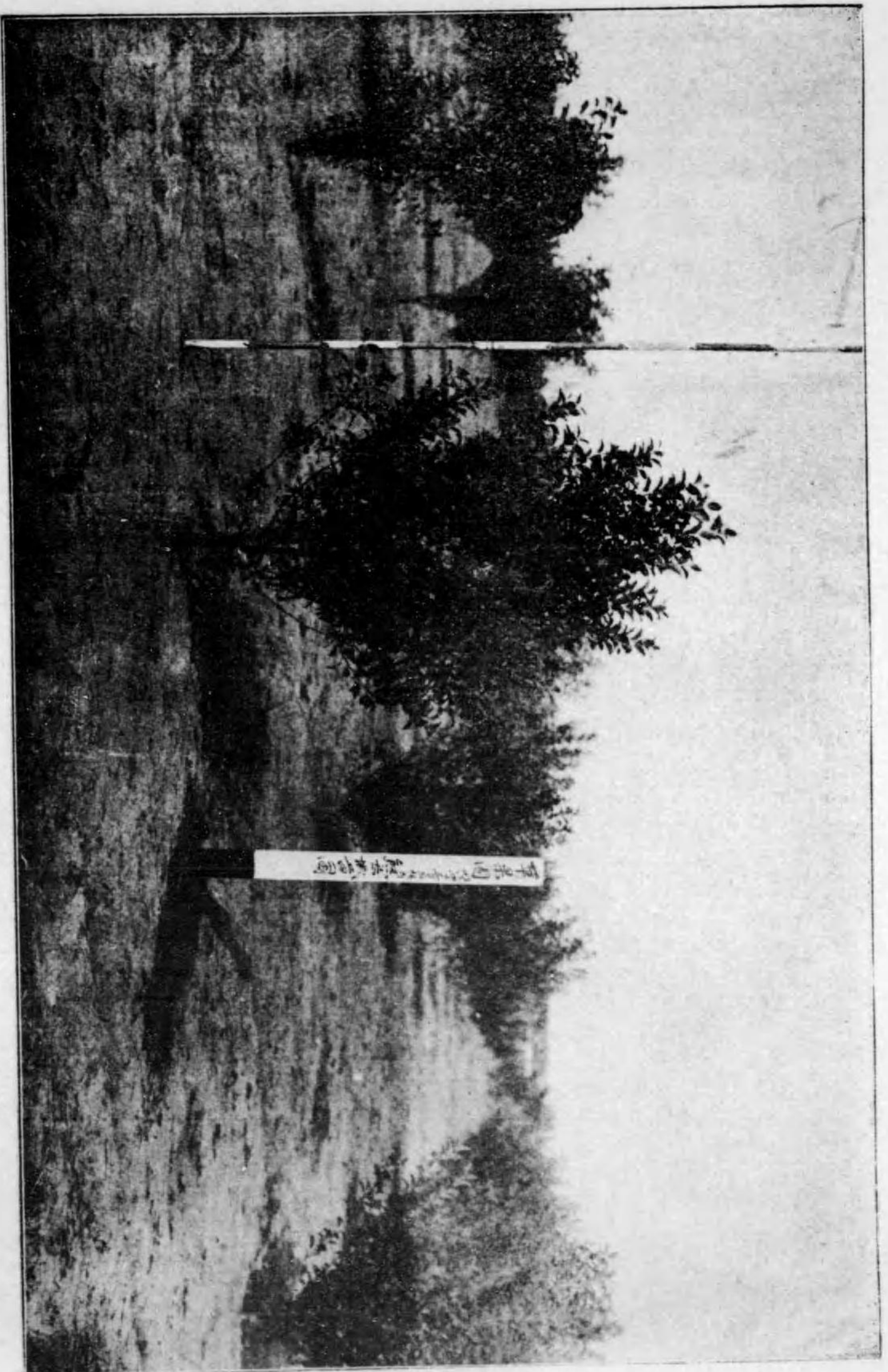
餘坪萬十積面總名改

景 全 場 分 城 岳 熊 場 驗 試 業 產

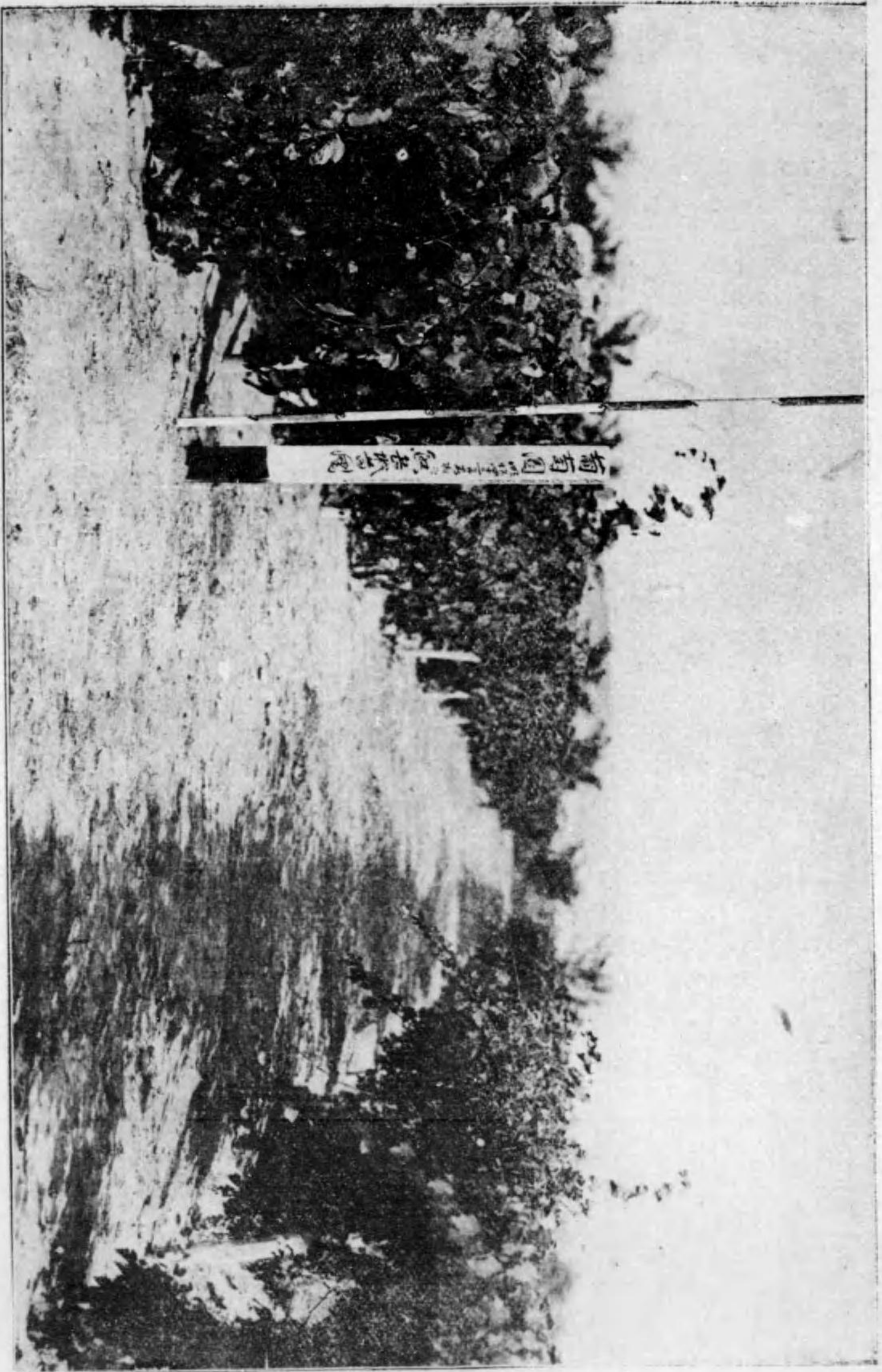


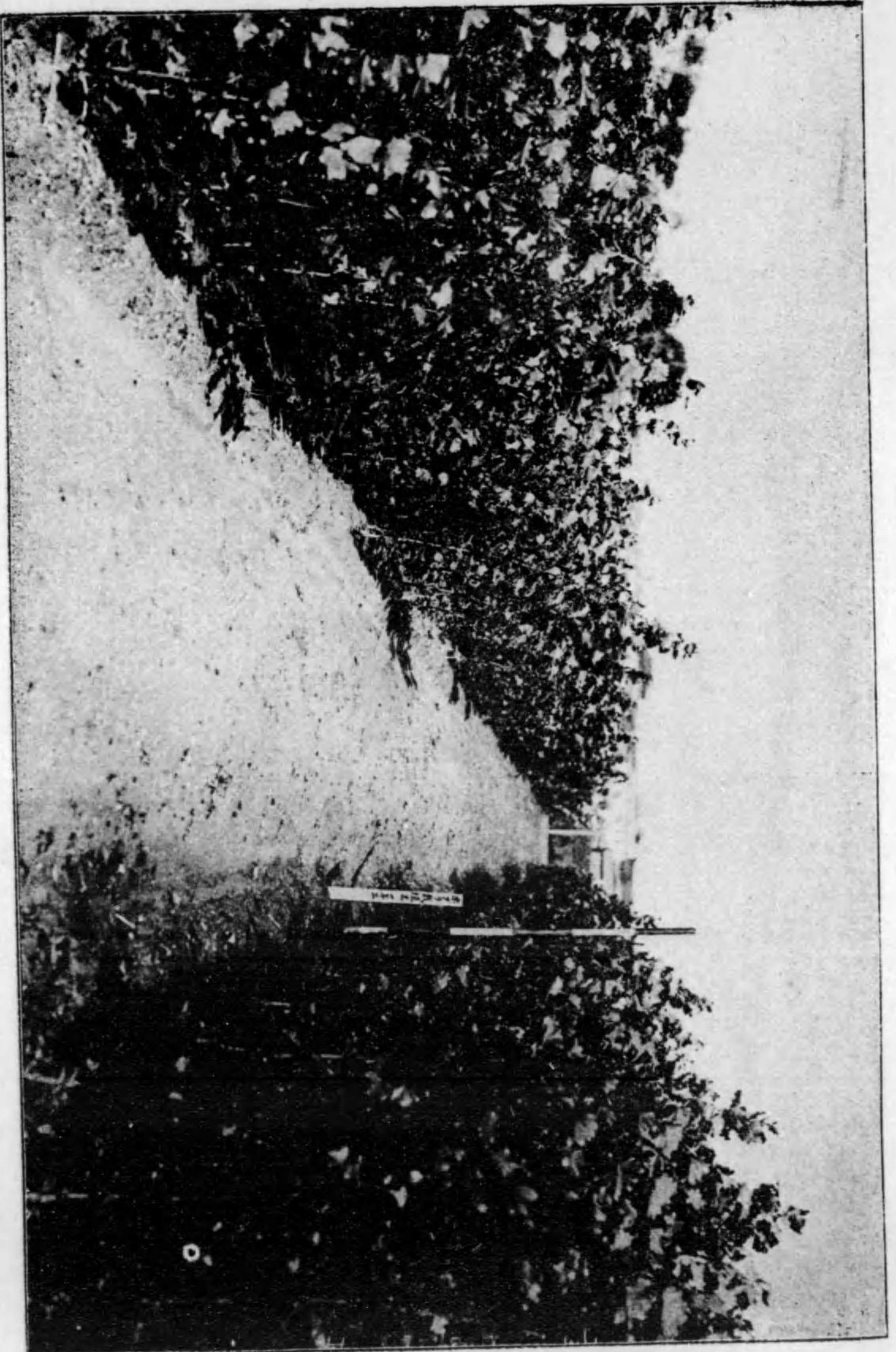
餘坪萬十積面總名改ト場分場驗試業產リ至ニ月二年二正大ノモシリタ穂苗來年二十四治明ハ場分本

園果萃場分城岳熊場驗試業產

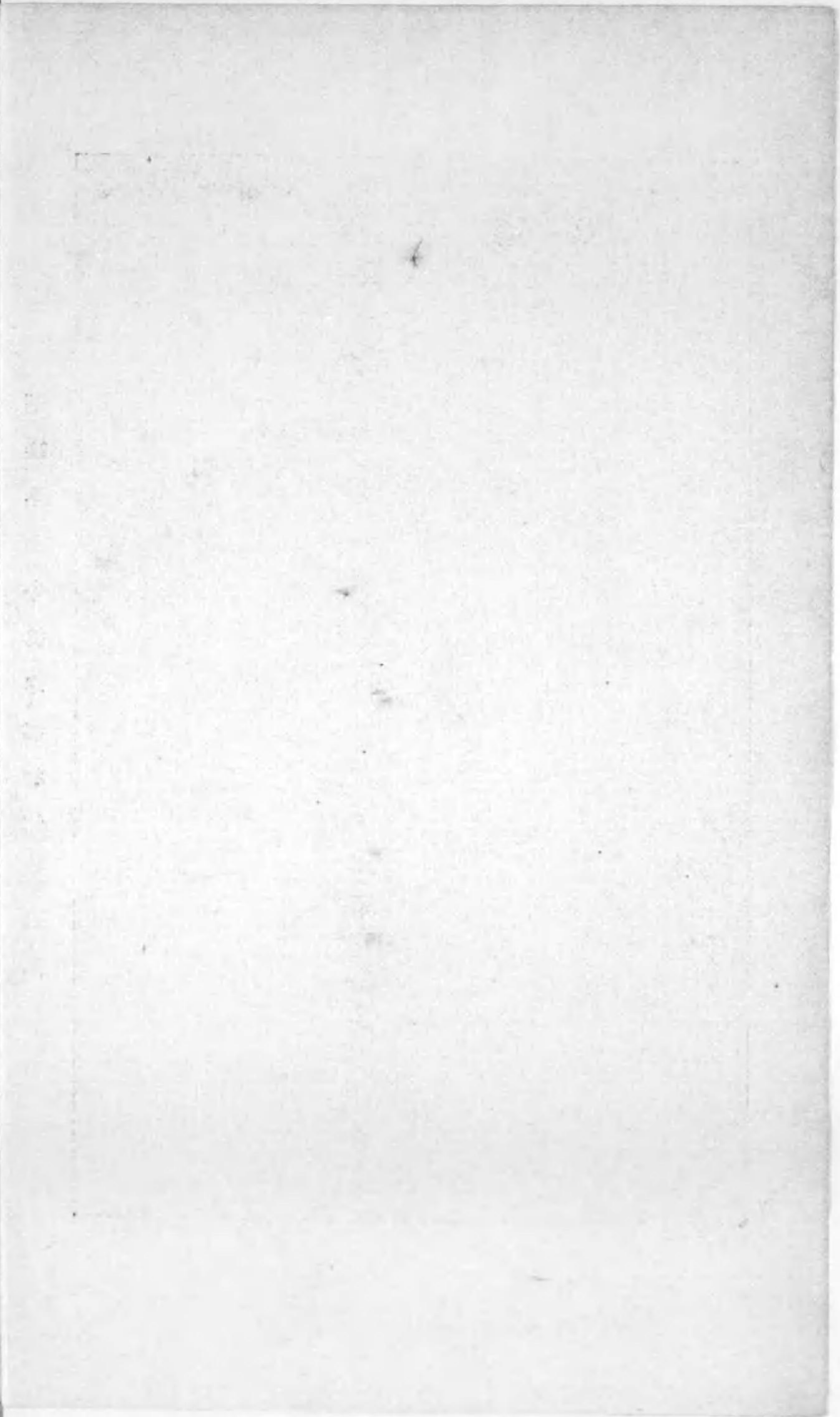


園 葡 葡 場 分 城 岳 熊 場 驗 試 業 產

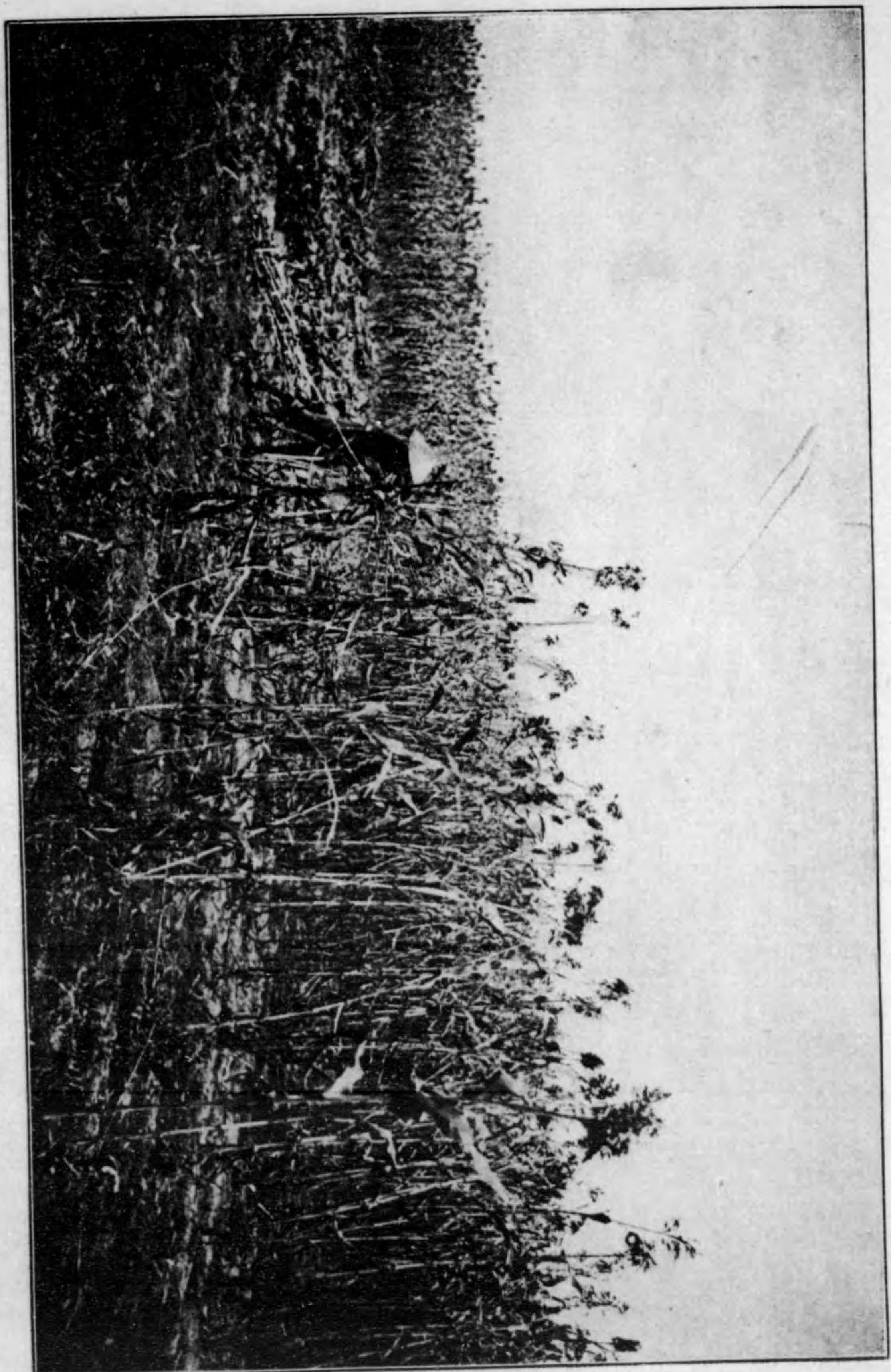




大連苗圃之一部



取 刈 ノ 梁 高 産 特 洲 滿



## 第一章 沿革

滿蒙現今ノ經濟界ノ基礎ハ主トシテ農牧業ノ上ニ立チ且ツ本社鐵道ノ重要貨物ガ主トシテ農產物ナルヨリ會社ハ明治四拾年創立ノ當初ヨリ滿蒙開發ノ第一要義ハ農牧業ノ改良増殖ヲ圖ルニアリトナシ明治四拾壹年以來屢々農牧林業等ノ各專問家ニ滿洲及蒙古產業狀況ノ視察ヲ囑シ產業開發施設ニ關スル意見ヲ徵シタリ、其結果鐵道沿線ノ要地ニ產業試驗場ヲ設置スルコト、ナリ愈々大正貳年四月ニ至リ地ヲ公主嶺附屬地内ニトシテ假リニ產業試驗場本場ヲ開設シ專ラ滿洲重要農作物ノ改良増殖ニ關スル試驗ト牧羊ニ關スル試驗研究ヲ行フコト、セリ、同時ニ豫テ沿線各地ニ配給スベキ樹苗ノ養成地トシテ明治四拾貳年ニ設置シタル熊岳城苗圃ハ創設ノ當時ヨリ樹苗養成ノ傍ラ果樹、蔬菜其他一般農作物ニ關スル試作ヲ爲シ來リ稍々試驗場トシテノ形質ヲ具備セルヨリ之ヲ改メテ產業試驗場分場トナシ主トシテ園藝、養蠶及水稻ニ關スル試驗研究ヲ行フコト、セリ、又沿線ノ各經理係ニアリテハ明治四拾壹年以降各々小規模ノ農園又ハ苗圃ヲ經營シ管内植樹ノ爲メニ本社直轄苗圃ヨリ配給ヲ受ケタル樹苗ノ假植ヲナスト共ニ農作物ノ簡單ナル試作ヲ繼續シ來リシモ之等ハ產業試驗場ノ設立ニ從テ試作簡處及作物種類ニ取捨限定ヲ加ヘ長春、鐵嶺、及遼陽經理係所屬ノ苗圃ニ限リ產業試驗場監督ノ下ニ各地方ノ重要農作物ニ就キ統一的ニ試作ヲ行フコト、セリ、

其他會社ハ最近滿洲ニ勃興シタル稻作ニ關シ試驗研究ノ必要ヲ認メ大正貳年四月ヨリ撫順、奉天、鐵嶺及五龍背ニ水稻委託試驗ヲ開始シ産業試驗場ニ於テ之ガ監督ヲ爲セリ、

## 第二章 目的及所在地

滿洲及蒙古ニ於ケル農牧林産等ノ改良増殖ニ關スル各種ノ試種並ニ調査研究ヲ行ヒ其結果ヲ廣ク一般ニ知ラシメ、傍ラ良好ナル種苗、樹苗及種畜ヲ育成配布シ優良品種ノ普及ヲ圖ルヲ以テ主要ナル目的トナシ、公主嶺本場ニ於テハ專ラ滿洲在來ノ主要農作物及重要ナル新農作物ニ關スル試驗及調査ト種羊ノ改良ニ關スル試驗ニ力ヲ致シ、熊岳城分場ニアリテハ果樹、園藝、養蠶及水稻ニ關スル試驗ト樹苗養成ニ主力ヲ注ギ、又經理係所屬ノ苗圃ニアリテハ樹苗養成ノ傍ラ地方的主要農作物ノ試作ニ從事ス、本、分場及各苗圃ノ所在地左ノ如シ、

一、産業試驗場本場 支那奉天省懷德縣公主嶺鐵道附屬地内、公主嶺停車場ヲ距ル北方五町ノ處ニシテ南ハ滿鐵社宅市街地ニ接シ東西ハ附屬地ヨリ懷德ニ通スル道路ニ沿ヒ北ハ附屬地内農耕地ニ接ス

一、産業試驗場分場 支那奉天省蓋平縣熊岳城鐵道附屬地内、熊岳城停車場ヲ去ル東南二町ノ處ニシテ四邊皆附屬地内農耕地ニ接ス

### 一、稻作委託試驗地

撫順炭坑附屬地 大江惟慶借受地内  
奉天附屬地 勝弘貞次郎借受地内  
鐵嶺附屬地 吉見米太郎借受地内  
五龍背附屬地 大橋榮太郎借受地内

### 一、地方課及經理係所屬苗圃

大連苗圃 大連常盤橋、同北大山通、沙河口  
瓦房店苗圃 瓦房店附屬地内 大石橋附屬地内  
遼陽苗圃 遼陽附屬地内 奉天苗圃  
鐵嶺苗圃 鐵嶺附屬地内 長春苗圃  
本溪湖苗圃 本溪湖附屬地内 安東苗圃 安東附屬地内

## 第三章 土地並氣候

### 産業試驗場本場

#### 一、土質

産業試驗場本場ハ遼河ト松花江ノ分水界ヲナセル高原ノ中心ニ位シ地質系統ハ第四紀新層ニ屬ス土壤



ハ稍々重粘ナル地質壤土ニシテ表土深ク地味肥沃ナリ、場内ハ土地概シテ平坦ナルモ只處々ニ家屋除去ノ跡アルヲ以テ地方均一ナリト曰ヒ難シ

二、氣 候

年	十二月	十一月	十月	九月	八月	七月	六月	五月	四月	三月	二月	一月	月別
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	最高氣温
	九、八	九、九	一、七	二、六	二、五	二、八	二、六	二、四	二、一	一、一	一、二	七、三	最低氣温
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	平均氣温
	三、九	一、五	三、八	六、五	一、四	二、一	二、三	一、八	一、四	五、三	六、七	一、三	降水日數
	七、三	一、〇	六、〇	一、〇	一、二	一、六	一、五	一、一	八、五	六、五	四、〇	四、〇	降水量
	七、〇	一、七	一、六	八、〇	六、三	一、七	一、四	一、五	二、八	一、五	二、四	四、五	摘
	八	七	〇	九	〇	二	三	一	四	二	四	五	要

備考 産業試験場ニ於テ氣象觀測ヲ初メテヨリ日尙ホ淺ク前年來ノ平均ヲ得ルノ年數ヲ重ネザルヲ以テ附近長春測候所ノ調

查ニ依レリ

産業試験場分場

一、土 質

産業試験場分場ハ遼東半島ノ北部熊岳城河ノ右岸ニ位シ土質ハ地質學上古生層ニ屬セリ其表土ハ熊岳城河ニヨリテ沖積シタル砂質壤土ナルヲ以テ概シテ肥沃ナルモ下層土ハ主トシテ片麻岩ノ崩壞ヨリナレルカ故ニ粘硬性極メテ強シ場内ハ土地平坦ニシテ耕種ニ便ナリ、

二、氣 候

月別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	月別
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	最高氣温
	三、三	二、五	四、六	一、四	二、一	二、八	三、〇	三、〇	二、四	二、九	三、〇	二、九	最低氣温
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	平均氣温
	五、五	二、一	二、九	一、二	二、〇	二、七	二、九	二、八	二、四	二、七	二、八	二、六	降水日數
	三、七	一、八	三、八	五、〇	八、三	一、五	一、五	一、二	二、〇	二、五	七、三	七、三	降水量
	三、二	二、七	九、〇	二、四	六、〇	八、〇	一、六	一、七	一、七	一、七	七、〇	七、八	摘
	要												要

晩霜平均四月十七日

年	十月	十一月	十二月
	一六、〇	六、八	(一)
	(一)	(一)	(一)
	三、三	三、七	三、〇
	(一)	(一)	(一)
	一、二、五	四、一	四、六
	七、〇	四、〇	二、八
	四、〇、一	一、六、一	五、三
	七、〇	二、八	七、九、七
	五、九、三、九	五、三	五、九、三、九
	六	初霜平均十月五日	

備考 産業試験場分場ノ觀測ニハ降水日數及降水量ヲ缺ケルヲ以テ附近當日測候所ノ調査ニ依レリ

### 第四章 土地建物

#### 一、産業試験場本場

總面積	一、三、九六一坪(三拾七町九反八畝七步)
一、土地	
內譯	
作物試驗地	七、七、三七六坪
建物敷地	五、〇〇〇坪
畜産部用地	九、五〇〇坪
二、建物	
農藝部	
苗圃用地	五、〇〇〇坪
道路用地及樹林地	一七、〇八五坪

名	稱	棟數	建坪	摘	要
假事務所	假事務所	一	六三坪〇八	在來ノモノ	
厩舎	厩舎	一	三八、〇〇	大正二年新設	
飼料煮沸場	飼料煮沸場	一	四、八四	在來ノモノ	
作業所及倉庫	作業所及倉庫	一	二四、〇〇	同	
社宅及倉庫	社宅及倉庫	三	四〇、〇〇	同	
社宅	社宅	一	二七、二八	同	
浴室	浴室	一	七、五九	同	
浴舎	浴舎	一	六、八二	同	
物置	物置	一	六、八二	同	
共計	共計	一	二一八、四三	同	

#### 畜産部

名	稱	棟數	建坪	摘	要
假事務所及羊舎	假事務所及羊舎	一	三一坪五〇	在來ノモノ	
羊舎	羊舎	一	九七、五〇	同	
備人宿舍及物置	備人宿舍及物置	一	四二、七〇	同	
巡視詰所	巡視詰所	一	二、五〇	同	

支那人宿舍	六、〇〇〇	在來ノモノ	八
便計	四、二二二	同	
計	一八四、四二二		

一、産業試驗場分場

總面積  
一〇三、九九一坪(三拾四町六反六畝拾壹步)

果樹試驗地	八、三六二坪	蔬菜試驗地	一、四〇六坪
作物試驗地	一、一四〇坪	桑樹試驗地	七五〇坪
牧草地	三、一〇七坪	苗圃地	四五、五二八坪
飼料作物栽培地	二六、二七六坪	花卉栽培地	六〇〇坪
見本園	五〇九坪	並木及防風林用地	八、七七二坪
建築物敷地	九七五坪	道路及排水溝用地	五、二三八坪
雜地	一、三二八坪	外二稻作試驗地(借受)	六〇〇坪

名	稱	棟數	建坪	摘要
假事務所	假事務所	一	一二、〇〇〇	在來ノモノ
厩	厩	一	二八、〇〇〇	同
收穫物倉	收穫物倉	一	二八、〇〇〇	同
倉庫	倉庫	三	九一、七五〇	同
苗圃	苗圃	一	一八、四九九	同
夜警見張所	夜警見張所	一	三、〇〇〇	同
飼糧調製所	飼糧調製所	一	一三、五〇〇	同
畜舍番人小屋	畜舍番人小屋	一	三七、五〇〇	同
苗木草本貯藏室	苗木草本貯藏室	一	一七、五〇〇	同
宿舎	宿舎	一	二一、〇〇〇	同
浴場	浴場	一	四、六〇〇	同
計	計	一三	二四一、五九九	

一、委託試驗地

撫順鐵道附屬地	六〇〇坪	奉天鐵道附屬地	六〇〇坪
鐵嶺同上	六〇〇坪	五龍背同上	六〇〇坪
計	二、四〇〇坪		

一、地方課及沿線經理係所屬苗圃敷地

大連 苗圃	三〇、九二二坪	常盤橋、沙河口合計
瓦房店苗圃	九、九〇〇坪	北大山苗圃
遼陽 苗圃	七、〇〇九坪	大石橋苗圃
鐵嶺 苗圃	一五、〇〇〇坪	奉天 苗圃
本溪湖苗圃	一、二〇〇坪	長春 苗圃
計	一二六、九五五坪	安東 苗圃
		九、五〇〇坪

第五章 諸 規 程

一、産業試験場規程

第一條 産業試験場ハ地方課ニ屬シ左ノ事項ヲ掌ル

- 一、農産、養蠶、畜産及林産物ノ改良増殖ニ關スル試験並調査
  - 二、土壤、肥料、農産物、畜産物及林産物ノ分析鑑定並調査
  - 三、種苗、種畜及種禽ノ育成並配布
  - 四、農業、蠶業、牧畜及林業ノ指導講話並講習
- 第二條 産業試験場ニ左ノ職員ヲ置ク

場 長	主 事	一 名
技 術 員	事 務 員	若 干 名

第三條 場長ハ場務ヲ掌理ス

主事ハ場長ヲ補佐シ場務ニ従事ス

技術員ハ場長ノ命ヲ承ケ技術ニ従事ス

事務員ハ場長ノ命ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第四條 必要ノ地ニ産業試験場分場ヲ設ケ本場ノ事務ヲ分掌セシム

産業試験場分場ニ主任一名及必要ナル職員ヲ置ク

第五條 場長ハ認可ヲ經處務細則ヲ設クルコトヲ得

第六條 場長ハ毎年度ニ於テ施行スベキ試験ノ種類及方案ヲ定メ豫メ認可ヲ受クベシ

第七條 場長ハ業務ノ順序方法ヲ定メ豫メ認可ヲ受クベシ

第八條 場長ハ試験終了後五十日以内ニ其成績ノ要領ヲ報告スヘシ

第九條 毎年度ノ業務工程ハ翌年四月末日限り收支豫算ハ毎年八月末日迄ニ提出スベシ

第十條 場長ハ經理係所屬苗圃ノ業務ニ就キ常ニ經理係主任ト連絡ヲ保チ技術上ノ統一ヲ圖ルベシ

第十一條 本規程其他特ニ定メタルモノヲ除ク外總テ會社ノ例規ニ準據スベシ

二、産業試験場處務細則

第一條 産業試験場本場ニ技藝係及庶務係ヲ置キ場務ヲ分掌セシム

第二條 技藝係ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一、普通作物並ニ特用作物試験ニ關スル事項
- 二、畜産試験ニ關スル事項
- 三、委託試験ニ關スル事項
- 四、農事調査ニ關スル事項
- 五、農具ノ改良ニ關スル事項
- 六、農事巡回講話並ニ質問應答ニ關スル事項
- 七、農用種苗ノ育成並ニ配布ニ關スル事項
- 八、樹苗ノ育成並ニ配布ニ關スル事項
- 九、農牧林産物ノ化學的研究ニ關スル事項
- 十、農産製造ニ關スル事項
- 十一、農牧林業ニ關係アル物料ノ分析及鑑定ニ關スル事項
- 十二、植物病虫害ノ試験及調査ニ關スル事項

十三、氣象觀測ニ關スル事項

十四、其他技藝ニ關スル事項

第三條 庶務係ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一、場内取締ニ關スル事項
  - 二、物品ノ保管ニ關スル事項
  - 三、建物ノ管理及修繕ニ關スル事項
  - 四、文書ノ整理ニ關スル事項
  - 五、文書及物品ノ受付發送ニ關スル事項
  - 六、試験成績報告ノ編纂ニ關スル事項
  - 七、物品購入及賣却ニ關スル事項
  - 八、會計ニ關スル事項
  - 九、其他技藝係ノ主掌ニ屬セザル一切ノ事項
- 第四條 産業試験場熊岳城分場ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一、園藝作物並ニ普通作物ノ試験ニ關スル事項
  - 二、蠶業試験ニ關スル事項

- 三、園藝調査ニ關スル事項
- 四、園藝巡回講話並ニ質問應答ニ關スル事項
- 五、果樹蔬菜種苗ノ育成並ニ配布ニ關スル事項
- 六、樹苗ノ養成並ニ配布ニ關スル事項
- 七、農産製造ニ關スル事項
- 八、果樹蔬菜ノ病虫害試験及調査ニ關スル事項
- 九、氣象觀測ニ關スル事項
- 十、場内取締ニ關スル事項
- 十一、建物ノ管理及修繕ニ關スル事項
- 十二、文書及物品ノ受付發送並ニ整理保管ニ關スル事項
- 十三、試験成績報告ノ編纂ニ關スル事項
- 十四、物品ノ購入及賣却ニ關スル事項
- 十五、會計ニ關スル事項

## 第六章 事業要目

産業試験場本場、分場及各苗圃ニ於テ從來行ヒタル試験及事業ト並ニ來年度ニ於テ行ハントスル事業設計ノ大要左ノ如シ

### 一、産業試験場本場

#### (一) 種藝ニ關スル試験

1. 重要作物ノ耕種肥培ニ關スル試験  
供試作物 大豆、高粱、粟、小麥、陸稻、亞麻、甜菜等
2. 新作物ノ適否ニ關スル試験  
供試作物 穀菽類、大麥、稗麥、燕麥、ライ麥、スベルツ、玉蜀黍、黍、稗、小豆、豌豆、菜豆等  
工藝作物 荻草、薄荷、雲苔、荏、胡麻、大麻、黃麻、苧麻、苧麻、苧麻、綿、帚蜀黍等  
蔬菜類 馬鈴薯、玉葱等  
飼料作物 禾本科及荳科牧草類
3. 地力ニ關スル試験  
地力減耗試験 耕鋤深淺試験  
肥料連用試験 輪作試験
4. 在來農業經營法ニ關スル試験

(二) 農産製造試験

亞麻及大麻纖維製造試験  
馬鈴薯及玉蜀黍澱粉製造試験  
粉條子製造試験  
繩蓆業細工ニ關スル試験

(三) 調査

1. 分析調査

滿洲及蒙古ノ土壤分析調査  
滿洲農産物ノ分析調査  
滿洲在來ノ肥料分析調査  
農事調査  
滿洲在來重要農作物ニ關スル調査  
農具ニ關スル調査  
作物病虫害ニ關スル調査

(四) 氣象觀測

(五) 畜産ニ關スル試験及調査

1. 家畜改良試験

供試種 緬羊、豚

2. 家畜生産力試験

a 羊毛及羊肉生産試験  
b 豚肉生産試験

3. 家畜特別試験

家畜種類ニ關スル研究

4. 滿洲及蒙古ニ於ケル家畜及家禽種類調査

5. 同 家畜及家畜飼養管理法調査

6. 同 家畜及家禽生産力調査

7. 同 家畜及家禽利用法及取引法調査

8. 同 牧場ニ關スル調査

9. 同 獸疫ニ關スル調査

(六) 種苗ノ育成及配布

- (七) 樹苗ノ育成及配布
- (八) 見習生養成
- (九) 農事指導及講話
- (十) 畜産指導及講話

一、産業試験場分場

(一) 果樹ニ關スル試験

1. 果樹品種試験
- 供試果樹 苹果、梨、葡萄、桃、櫻桃、
2. 果樹剪枝ニ關スル試験
3. 果樹施肥及移植ニ關スル試験
4. 葡萄手入レニ關スル試験
5. 果樹間作ニ關スル試験
6. 果實貯藏ニ關スル試験

(二) 蔬菜ニ關スル試験

1. 蔬菜品種試験

供試蔬菜 南瓜、甜瓜、西瓜、豌豆、葱、馬鈴薯、甘藷、甘藍、葱頭、

2. 白菜肥料試験

3. 蔬菜貯藏試験

(三) 主要作物耕種肥培ニ關スル試験

1. 水稻ノ耕種肥培ニ關スル試験
2. 大豆、高粱、粟、玉蜀黍、小豆ノ品種撰別試験
3. 同 肥料試験

(四) 新作物ノ適否ニ關スル試験

供試作物 大麻、亞麻、綿、甜菜、落花生、薄荷、牧草、蘭及莞草、藥草、

(五) 在來農業經營法ニ關スル試験

(六) 養蠶ニ關スル試験

1. 春蠶及秋蠶飼育試験
2. 蠶種貯藏試験
3. 桑樹品種及仕立法試験

(七) 樹種ノ適否ニ關スル試験



(八) 調查

1. 果樹及果實ニ關スル調査
2. 蔬菜ニ關スル調査
3. 水稻ノ病害虫ニ關スル調査
4. 蠶桑ニ關スル調査

(九) 氣象觀測

(十) 果樹經濟園設置及養蜂

(十一) 一種苗木ノ育成及配布

(十二) 見習生養成

(十三) 農事指導及講話

三、委託試驗

一、水稻品種ノ適否ニ關スル試驗

四、地方課及沿線經理係所屬苗圃

(一) 大連苗圃

1. 樹苗ノ養成並ニ配布

(二) 瓦房店苗圃

樹苗ノ養成並ニ配布

(三) 大石橋苗圃

1. 樹苗ノ養成並ニ配布

2. アルカリー地改良試驗(白旗ニ於テ大正三年度ヨリ施行)

(四) 遼陽苗圃

1. 樹苗ノ養成並ニ配布

2. 主要農作ノ試作

供試作物 亞麻、陸稻、牧草

(五) 奉天苗圃

樹苗ノ養成並ニ配布

(六) 鐵嶺苗圃

1. 樹苗ノ養成並ニ配布

2. 主要農作物ノ試作

供試作物 大麥、亞麻、小麥、燕麥、陸稻、牧草、桑、  
(七) 長春苗圃

1. 樹苗ノ養成並ニ配布

2. 主要農作物ノ試作

供試作物 亞麻、陸稻、小麥、燕麥、スベルツ、ライ麥、牧草、桑、

(八) 本溪湖苗圃

樹苗ノ養成並ニ配布

(九) 安東苗圃

樹苗ノ養成並ニ配布

### 第七章 事業成績

#### 一、産業試驗本場

當場ハ大正二年四月ノ設立ニ係リ創業後日尙ホ淺キヲ以テ未ダ發表スルニ足ルベキ成績ヲ有セズ、且大正二年度ニ於ケル業務ハ主トシテ次年度以降ニ於テ施行スベキ試驗並ニ其他ノ準備ヲ爲スニ止メタリ、即チ農藝部ニ於テハ滿洲在來ノ主要作物タル大豆、高粱、粟等ニ就キ其改良スベキ事項及ビ品種

ヲ査定スルト共ニ又今後滿洲ノ重要作物トナリ得ベキ數種ノ新作物ノ輸入栽培シ滿洲ノ風土ニ對スル適否ヲ確メ以テ將來ニ於ケル試驗材料ヲ得ントスルニアリタリ

又畜産部ニアリテハ將來滿洲及蒙古ニ於ケル在來綿羊ノ改良増殖用ニ供センガ爲メニ少許ノ純粹綿羊ヲ輸入飼育セシニ過ギズ

以上大正二年中ノ施行ニカ、ル事業經過ノ大要ヲ記セハ左ノ如シ

#### 甲、農藝部

公主嶺地方ニ於ケル本年ノ氣候ハ春季概シテ晴乾加フルニ強風連續シ六七月ノ候ニ於テ雨濕多ク八月ニ入リテ高温ヲ示シ秋季ニ於ケル氣候ハ稀ニ見ルノ好況ナリキ、之ガ爲ニ禾穀類中高粱、粟等ノ作物ハ發芽不整ニシテ生育又良好ナラズ從テ充分ナル充實ヲ見ザリシガ之ニ反シ荳菽類其他亞麻等ノ作物ニアリテハ發芽生育共ニ良好ニシテ相當參考ノ資ヲ擧ゲ得タルモノ尠ナカラズ

#### A 在來主要作物區

滿洲在來ノ特産物タル大豆、高粱、粟ノ各作物ヲ其主産地タル長春、公主嶺、四平街、昌圖及開原等ノ各地方ヨリ蒐集シ之ヲ滿洲在來ノ耕作法ニヨリテ栽培セシメ其改良スベキ事項及品種ヲ査定シ次年度ニ於ケル試驗材料並ニ試驗用種子ヲ取收スルヲ以テ目的トセリ  
其種類區數等左ノ如シ

種類	區數	坪數	反別	支那反別
大豆	二二	三九、六〇〇	一三、二	二二天地(千八百坪)
高粱	一〇	一八、〇〇〇	六、〇	一〇天地
粟	八	一三、五〇〇	四、五	七天地半
計	四〇	七一、〇〇〇	二三、七	三九天地半

1. 大豆

生育ノ狀況 發芽生長共ニ他ノ作物ニ比シ良好爾後ノ生育亦タ概シテ佳良ナリキ、其狀況左ノ如シ

區名	下種期	發芽		開花期	刈取期	一歩		子實重量	子實一升重量
		期	節			子實重量	子實容量		
長春產	五月五日	五月二十日	稍良	七月廿三日	十月一日	五、三〇〇	一、五三二	四〇、八〇〇	三三五
公主嶺產	五月二日	五月十五日	良	七月廿二日	九月廿八日	五〇、一六〇	一、四九七	三八、三〇〇	三三五
四平街產	五月二日	五月十六日	良	七月廿一日	九月廿七日	四四、六〇〇	一、三〇〇	二五、八〇〇	三三八
昌圖產	五月八日	五月二十日	良	七月廿三日	十月八日	三七、一〇〇	一、二二四	三五、六〇〇	三三三
開原產	五月八日	五月二十日	良	七月廿三日	十月八日	三八、三〇〇	一、二六一	三六、五〇〇	三三〇

備考 一區ノ面積ハ一田地(千八百坪)即チ六反歩トス

2. 高粱

生育ノ狀況 春季乾燥ニ加フルニ高粱栽培地ハ家屋道路等除去ノ跡地ナリシヲ以テ發芽生長共ニ不

良ナリシヲ免レズ更ニ九月中旬ノ強風ノ爲メニ倒臥セシモノニ割内外ニ及ビシ等種々故障ノ爲メ良好ナル結果ヲ收メ得ザリキ、其狀況左ノ如シ

區名	下種期	發芽		出穗期	刈取期	一歩		子實重量	子實一升重量
		期	節			子實重量	子實容量		
長春產	五月四日	五月廿七日	不良	八月五日	十月九日	二七、五三〇	〇、八三九	九一、七五〇	三三八
公主嶺產	五月三日	五月廿三日	稍良	八月三日	十月八日	二六、一五〇	〇、八〇二	九八、六五〇	三三六
四平街產	五月六日	五月廿九日	不良	八月十五日	十月六日	一四、一八八	〇、四四二	六四、九八三	三三三
昌圖產	五月八日	五月廿八日	不良	八月十七日	十月五日	一六、一三八	〇、五二二	九〇、八一七	三二〇
開原產	五月十五日	五月廿八日	不良	八月二十日	十月五日	一三、二七五	〇、四一五	六二、四五〇	三二〇

備考 一區ノ面積ハ一田地(千八百坪)即チ六反歩トス

3. 粟

生育ノ狀況 春季晴乾ナリシ爲メ發芽生長共ニ不良且ツ栽培地ノ大部分ハ舊人道ノ跡地ヲ鋤起供用セシガ爲メ土壤ノ破碎完全ナルヲ得ス就中昌圖產區開原產區ハ其中央ニ遭遇セシ爲メ作況頗ル不良ナリキ、其狀況左ノ如シ

區名	下種期	發芽		出穗期	刈取期	一歩		子實重量	子實一升重量
		期	節			子實重量	子實容量		
長春產	五月四日	五月廿日	不良	七月三十日	九月廿二日	四四、八三〇	一、三三〇	五〇、〇〇〇	三三三
公主嶺產	五月二日	五月十六日	不良	八月五日	九月廿四日	二八、一一〇	〇、八五三	四四、一〇〇	三三〇



五割	五月十六日	五月廿五日	良	同	九月五日	三七五〇	一、〇〇一	一一、七五〇	三七三
赤穀	同	同	良	同	同	八五七九	二、三七〇	三、〇八二	三六二
鶴ノ子	同	五月廿八日	稍不良	不整	七月三十日	二、五〇〇	〇、六三〇	六、五〇〇	三四一
赤莢	同	五月廿九日	同	同	同	五〇七五〇	一、五〇六	一、五〇〇	三三七
甘露	同	五月廿八日	同	同	同	四七、五〇〇	一、四二六	六、五〇〇	三三三
大谷地	同	五月三十日	同	同	七月廿一日	四七、五〇〇	一、四二六	六、五〇〇	三三三
白小粒	同	五月廿八日	同	同	七月廿一日	三五、四〇〇	一、〇〇〇	五、五〇〇	三五四

結實セザルヲ以テ調査ヲ欠ク

2. 小豆

前表ニ據テ見レバ北海道産ノモノハ内地産ノモノニ比シ有望ナルモノ、如シ

品種名	下種期	期發	長否	芽整否	開花期	刈取期	一反	歩收	子實一
大納言	五月十六日	五月廿三日	良	整	八月十日	九月廿五日	三六、三八三	〇、九四三	五、六二五〇
早生大納言	同	同	同	同	同	同	四九、九五〇	一、二九四	六、二五〇〇
丸葉	同	同	同	同	八月八日	九月十一日	六五、七五〇	一、七七七	六、七五〇〇
劍先	同	同	同	同	八月十日	同	五〇、七〇〇	一、三四一	六、二五〇〇

3. 菜豆

品種名	下種期	期發	長否	芽整否	開花期	刈取期	一反	歩收	子實一
矮性種金時	五月十六日	五月廿九日	良	稍整	七月二日	八月十日	六四、九一七	一、七八三	一八、五八三

同	同	五月廿九日	同	整	七月七日	八月十八日	三七、三五〇	一、〇〇一	一一、七五〇
蔓性種	同	五月廿一日	同	同	七月九日	九月一日	八五、七九二	二、三七〇	三、〇八二
同	同	五月廿八日	同	同	七月十日	八月二日	六八、一六七	一、九三二	八、六三三
同	同	五月三十日	同	同	七月十五日	九月六日	五二、四五〇	一、五三四	四、六八三
同	同	五月廿九日	同	同	七月十一日	八月廿九日	六九、三三三	一、九六四	四、一六七
同	同	五月廿二日	稍不良	不整	七月十五日	九月三日	六七、〇〇〇	一、八一	四、三〇〇
同	同	五月廿二日	同	不整	七月十五日	八月廿一日	五九、〇〇〇	一、五二四	五、二三三
同	同	五月廿三日	稍不良	不整	七月十五日	八月廿一日	三二、二〇〇	〇、八七七	一九、五〇〇
同	同	五月廿一日	不良	不整	七月廿一日	八月廿八日	四七、六五〇	一、三〇二	三、八五〇〇
同	同	五月廿三日	不良	不整	七月十五日	九月三日	六七、〇〇〇	一、八一	四、三〇〇

備考 一、蔓性種ニ就テハ霜害ヲ免レンガ爲メニ八月二十日頃ヨリ晩熟ノモノニ對シ根拔チ行ヒ成熟ヲ促進シタリ  
二、表中群ノ重量多量ニ過ケルノ感アルモノハ各種成熟ノ度ヲ異ニシ充分乾燥セザルモノヲ秤量セシガ爲メナリ

4. 燕麥

品種名	下種期	期發	長否	芽整否	出穂期刈取期	一反	歩收	子實一	
レースホース	五月八日	五月廿四日	稍良	稍整	七月十八日	八月四日	四五、六〇〇	二、二一四	一三、〇四〇
ナイアガラ	同	五月廿三日	良	整	同	同	五〇、四一〇	二、五四三	一四、五〇〇
クライステール	同	五月廿一日	稍良	稍整	七月十四日	八月五日	五八、三三〇	三、二〇七	一七、〇〇〇
アイルランド	同	五月廿三日	良	整	七月十六日	同	五二、〇八〇	二、九二二	九、三二〇〇



トネリコ	熊岳城附近	一、五	八二、五	五、五	六月廿五日	七、一五〇	七、一五〇	同普通
クロマム	熊岳城分場	二、〇	三〇、〇	一、五	同	一六、五〇〇	一六、五〇〇	同良好
トマム	熊岳城附近	一、五	七五、〇	五、〇	七月八日	五、五〇〇	五、五〇〇	同普通
計			五四、〇	三五、五		七一、四五〇	七一、四五〇	

乙、畜産部

滿州及蒙古在來綿羊ノ改良試驗ニ供スル目的ヲ以テ左ノ種羊ヲ購入セリ

種別	性別	頭數	産地	摘要
ランブーレーメリノ種	牝	二	宮内省下總御料牧場	成羊
シユロツプシアアイノ種	牝	二	農商務省月寒種畜牧場	仔羊
サウスダウン種	牝	二	同上	仔羊
計		六		

尙大正二年度内ニ於テ蒙古羊約百六十頭ヲ購入シ雜種改良試驗ヲ施行スルノ準備中ナリ

種羊飼育ノ狀況

1. 飼料

種別	性別	飼料		草		摘要
		乾草	豆	草	鹽	
ランブーレーメリノ種	牝	六〇	三〇	六〇	一〇	成羊
同上	牝	五〇	三〇	五〇	一〇	同
シユロツプシアアイノ種	牝	四〇	二〇	三〇	五	成羊
サウスダウン種	牝	四〇	二〇	三〇	五	同
計		一四〇	一〇〇	一七〇	二五	

3. 疾病

稀ニ輕症ノ腸加答兒ヲ見ルモ其他特ニ疾病トシテ擧グベキモノナシ

丙、調査及出張

大正二年中調査其他要務ノ爲メ場員ノナセシ出張ハ職員一八回一九三日助手一回三七日ニシテ總計一九回二三〇日ナリトス、其内譯ヲ示セバ左ノ如シ

事務打合せノ爲メ本社ニ出張	職員	二回	二四日
産業調査ノ爲メ沿線ニ出張	同	一〇回	六三日
品評會審査ノ爲メ沿線ニ出張	同	一回	四日
綿羊購入ノ爲メ蒙古ニ出張	同	二回	三八日
同上	助手	一回	三七日
産業調査ノ爲メ蒙古ニ出張	職員	一回	五〇日

産業視察ノ爲メ朝鮮ニ出張

同

一回

一四日

其他當場附近ニ於テ農談會及ビ實地指導ノ爲メ便宜場員ヲ派シテ講話指導ヲナシ又農事ニ關スル質  
疑照會ニ對シ應答ヲナセリ

一、産業試驗場分場

當分場ハ最初專ラ沿線各地ニ配給スベキ樹苗養成ヲ目的トセル苗圃トシテ明治四拾二年設立セラレ  
シモノヲ産業試驗場ノ創設ト共ニ大正二年五月同試驗場分場ニ變更改稱セラレタルモノナリ茲ヲ以テ  
創設以來主トシテ樹苗ノ養成及ヒ之ガ配布ニ力ヲ致シタリト雖モ其傍ラ園藝及農産ニ關スル簡單ナル  
試驗調査ヲ續行シ來リ既ニ其成績稍見ルニ足ルベキモノ少ナカラズ、今其事業ノ概況ヲ記セバ

1. 果樹 果樹ハ當場創設以來諸種類ノ試植ヲ行ヒシガ其結果梨、苹果葡萄ノ三種ガ此地方ノ風土、氣  
候ニ適合スルコトヲ確メ其蕃殖ヲ圖レリ、而シテ梨ハ既ニ一昨大正元年ニ於テ少許ノ結實ヲ見、苹  
果亦其生育狀況極メテ良好ナリ、葡萄ニ至リテハ其防寒設備ニ充分ノ注意ヲ拂フニ於テハ一般ニ好  
適ナルコトヲ認メ得ラル

2. 蔬菜花卉類 蔬菜ハ只灌水ノ設備充分ナルニ於テハ内外種殆ト適セザルモノナク、花卉又同様ナリ  
而シテ此等ハ既ニ當場ニ於テ採種セル種子ヲ沿線各地ニ配給セルモノ少ナカラズ

3. 水稻 水稻ハ大正元年甫メテ之ガ試作ヲ行ヒタリ第一年目ハ諸般ノ設備全タカラザリシヲ以テ其成  
績不充分ナリシモ大正二年度ニ於テ稍其成績ヲ確ムルコトヲ得タリ、前二ヶ年ノ成績ニ徴スレバ内  
地産中東北地方ノ早生種ハ一般ニ當地方ノ風土氣候ニ適應セルモノト認メラル

4. 牧草 牧草ニハ滿洲ノ冬寒ニ堪ユルモノ少ナク從來ノ成績ニヨレバ只「アルファアルファ」ノミハ成  
績良好ナリト認メラル

5. 樹苗養成 當初滿洲以外ノ地ヨリ各種ノ種苗ヲ輸入シ養苗ヲ試ミシガ夏期ヨク成育スルモ冬期ニ枯  
死スルモノ多カリシヲ以テ其後滿洲在來ノ樹種ヲ調査シ其種子ヲ採收シテ苗木ノ育成ヲ圖レリ、在  
來樹種中主ナルモノハ柳、白楊、榆、楓樹、楡、松、側柏、樺等ニシテ皆耐寒性强ク成績良好ナリ  
其他内地ヨリ輸入シタルモノ、内「ニセアカシヤ」「ポプラ」「アセルネクント」等ハ當地方ニ適スルモ  
ノト認メラル

甲、園藝部

1. 果樹

當場ニ於ケル從來ノ試驗及調査ノ結果成績良好ニシテ當地方ニ於テ營利栽培ニ適スト認ムベキモノ  
左ノ如シ

種類名	品種名	成熟期	摘	要
鴨梨	梨	九月下旬	樹性强健ナラザレドモ品質優良ナリ	



支那梨	支那葡萄	米國葡萄
紅梨	白雞心	紅圓心
九月下旬	九月中旬	九月中旬
樹性強健豐產品質亦優良ナリ	品質鴨梨ニ似テ稍劣レリ	樹性強健ナラザレドモ品質極メテ良好果色白
		同
		漿液多量甘味強ク優良品ナリ
		樹性強健品質良好ナリ果色白
		樹性強健漿液少ナク甘味ニ富ム但果皮厚シ
		樹性強健豐産ナレドモ品質不良

2. 蔬 菜

備考 以上ノ外日本梨「長十郎」、支那梨「香氣梨」、「牛頂梨」及ヒ葡萄ニテハ「ブラツクハンブルグ」、「甲州」、「ペーコン」、「ハバード」等ハ稍良好ト認メラル

種類名	品名	形状大小	早晚	收量	摘要
蘿 蔔	聖護院大根	稍圓大	晚	多	
	宮重根	長圓筒大	晚	多	
	練馬大根	長圓筒大	晚	多	
	廿日大根	扁圓小	晚	小	

種類名	品名	形状大小	早晚	收量	摘要
胡 蘿 蔔	三寸人參	短紡錘大	晚	多	外皮黃赤色
牛 蒡	砂川	細長大	中	多	外皮淡紅色
馬 鈴 薯	アノフリーローズ	長圓中	早	中	外皮黃褐色
同	スノーフレッキー	長圓中	晚	中	軟白用
葱	在來葱	莖身長大	中	多	軟白用
同	縮緬チシャ	球形大	中	多	結球易
同	コンサラド	球形大	中	多	結球易
白 菜	在來種	細長大	晚	多	結球易
同	在來種	細長大	晚	多	結球易
甜 瓜	在來種	細長大	晚	多	結球易
同	青皮翠	橢圓大	中	多	顆肉白色
同	蠟黃	橢圓大	中	多	同綠色
同	鐵八青	橢圓小	早	多	同黃白色
同	羊田密	橢圓小	早	多	同綠色
越 瓜	札幌大長	長圓筒大	中	多	同綠色
南 瓜	ハバド	扁圓大	中	多	同綠色
同	縮緬座	扁圓中	晚	多	同綠色
西 瓜	在來種	長橢圓中	中	中	顆肉黃白色
	在來種	長橢圓中	中	中	同赤色

茄子	在來長茄	長圓大	晚	多
蕃茄	在來圓茄	圓形中	晚	中
蕎麥	ミカド	扁圓大	晚	多
塘蒿	ホワイトセルリー	扁圓大	晚	多

三八

3. 草花

當場ニ於ケル試培ノ結果當地方ニ適スト認メラルベキ草花ノ種類及性状左ノ如シ

種	類	性質	播種期	移植期	開花期	草丈	花色	花ノ大小	繁殖法	摘要
桔梗	梗	宿根	四月中旬	自五月中旬至六月中旬	八—九月	三—五尺	紫	二寸内外	播種	
勿忘草	草	同	同	同	七—八月	一—二尺	白	一寸三分	同	
キヤリオビス	草	同	同	同	六—八月	二—三、五尺	濃黃	二—三寸	同	
月見草	草	同	同	同	七—九月	三—五尺	黃	二寸七八分	同	
ボルチユラカ	一年生	同	同	同	同	〇、六—九尺	紅白赤桃	一—一、五寸	同	

草花種苗ノ配給 明治四拾三年以來當場ヨリ沿線各地ニ配給シタル草花種苗ノ數量左ノ如シ

一、草花苗

明治四拾三年度 六三、九七〇本  
 同 四拾四年度 一一〇、五五〇本

大正元年度 三三、二八〇本  
 同 二年度 未調査  
 合計 二〇六、八〇五本

一、草花種子

明治四拾三年度 一、一〇四  
 同 四拾四年度 一、〇二六  
 大正元年度 〇、九三〇  
 同 二年度 一、二〇六  
 合計 四、二六六

乙、農藝部

1. 水 稻

當場ニ於ケル試驗ノ結果當地方ニ適スト認メラルベキ水稻ノ品種及性状左ノ如シ  
 耕種ノ梗概

一、苗 代

整地 苗代ハ四月十五日ニ四圍ノ畦畔ヲ整ヘテ第一回ノ耕鋤ヲナシ四月十七日更ニ之ヲ細碎シ四

三九

月二十日ニ施肥シ同月三十日ニ代掻ヲ行ヒ五月一日幅四尺踏切り八寸ノ苗床ニ整ヘタリ  
肥料 悉ク元肥トシテ使用シ淺ク土壤ト混和セリ今一步ノ施用量ヲ示セバ次ノ如シ

肥料名	數量	所含素			量
		窒素	磷	酸	
人糞尿	二〇〇〇	一一	四〇	二六〇	五、四〇
過磷酸石灰	〇五〇			七、五〇	
葉灰	〇四〇			〇、八四	一、八〇
計		一一、四〇		一〇、九四	七、二〇

撰種 浸種前鹽水撰ヲ行ヘリ其液比重次ノ如シ

梗 稻 有芒種 一、一〇

同 無芒種 一、二三

浸種 撰種シタル粃ヲ四月二十一日ヨリ水ニ浸漬スルコト一週間トス但其間時々換水シ又種子ヲ上下反轉セリ

播種 播種ノ前日一旦苗代ノ水ヲ排除シ播床ノ硬軟適度ナルヲ見計ヒテ再ビ灌水シ豫テ浸種セシ粃ニ温度ヲ與ヘ少シク萌芽ノ兆アラシメタルモノヲ五月二日一步ニ付小粒或ハ無芒種ハ四合大粒或ハ有芒種ハ五合ノ割合ヲ以テ播下セリ

播種後ノ管理 播種後三日間ハ灌水ノ儘放置シ其後風雨寒冷ノ日ヲ除キ毎朝午前十時頃ヨリ排水シ

(種粃ノ現ハル、ヲ度トシ)午後三時半頃ヨリ灌水シ苗ノ強剛ヲ圖レリ苗ノ四寸位ニ成長セル後ハ常ニ淺ク灌水シ尙天候及苗ノ發育状態ニヨリ時々排水シテ光熱ヲ與ヘタリ發芽ハ五月七日ナリキ

病害蟲驅除 五月下旬ニ於テ浮塵子ノ發生ヲ見タルモ驅除豫防ニ勉メタリシヲ以テ被害ナク病害ハ認メザリキ

二、本 田

整地 本田ハ四月中旬第一回ノ耕起ヲ行ヒ畦畔ヲ整ヘ移植又ハ直播三四日前ニ施肥シ後灌水シテ縦横二回ノ代掻ヲ行ヒ田面ノ高低ヲ均ラシ移植又ハ直播ノ準備ヲナセリ

肥料 一反步當左表ノ肥料ヲ原肥トシテ施セリ

肥料名	用 量	所含素			量
		窒素	磷	酸	
堆肥	二〇〇〇	一	四〇	五二〇	一、二六〇
大豆粕	一〇〇〇	七〇		一五〇	二、一〇〇
過磷酸石灰	五〇〇			七五〇	
計		一、七〇〇		一、四二〇	一、四六〇

插秧 六月十二日ヨリ同十三日ノ期間ニ於テ插秧ヲ行ヒ畦間八寸株間八寸一步ニ付五十六株ノ正條  
植トス一株ノ苗數ハ早生十本中生及晩生ハ八本トセリ

中耕及除草 第一回 六月二十七日 第二回 七月十二日 第三回 七月二十四日

第四回 八月 四日

灌排水 插秧當時ハ稍深ク灌水シ苗ノ生著後ハ可成灌水ノ度ヲ淺クシ尙除草毎ニ落水シテ田面ニ光  
熱ヲ導キタリ、其後穂頭ノ傾垂スル頃ヨリ全ク排水シテ土壤ノ乾燥ヲ計レリ

病害蟲驅除 時々螟虫浮塵子多少ノ發生アリシモ驅除スル迄ニ至ラザリキ

收穫 收穫ハ八月二十七日ニ始マリ十月十日ニ終レリ、各黃熟期ニ至リ之ヲ刈取レリ  
乾燥 全部稻架ニ掛ケ十日間陽乾ノ後之ヲ刈取レリ

品 種 名	成 熟 期 彙 計 調 査		出 穂 期	成 熟 期	玄 米 收 量	一 升 重 量	彙 量	玄 米 調 査
	早中晩	年 度 試 驗						
早生大野	早 粳	二 五 月 二 日	八 月 十 四 日	九 月 廿 六 日	三、五八六	三八五	一〇三、八〇〇	一
三 度 變	同	二 同	同	同	三、一〇〇	三八〇	一七、二〇〇	二
白 早 租	同	二 同	八 月 十 六 日	同	二、四八七	三八四	一〇五、六〇〇	三

備考 以上ノ外中生粳中穂之尾、保村等ハ優良ト認ムルモ試驗年數ヲ重ネザルヲ以テ其適否ヲ斷定シ難シ

2. 高 粱

當場ニ於テ試驗シタル高粱ノ品種及其特性左ノ如シ

品 種 名	下 種 期	發 芽 期	出 穂 期	刈 取 期	子 實 重 量 一 步 收 量			子 實 一 升 重 量
					子 實 重 量	一 步 收 量	一 升 重 量	
黑殼蛇眼飯高粱	五 月 三 日	五 月 十 六 日	八 月 五 日	九 月 十 三 日	六、七〇〇	一、九二	一三九、二〇〇	三五四
黑殼矮身飯高粱	同	同	八 月 七 日	同	五、七二〇	一、六〇〇	一二、〇〇〇	三四五
竹葉青飯高粱	同	同	八 月 五 日	同	六、四九〇	一、八四〇	二四、八〇〇	三五三
小黃殼飯高粱	同	同	同	九 月 十 四 日	七、〇一〇	二、〇二	一〇〇、八〇〇	三四八
小黃殼矮身飯高粱	同	同	同	同	八、一五〇	二、六〇〇	二二、〇〇〇	三三五
喜雀白飯高粱	同	五 月 十 九 日	八 月 十 三 日	九 月 廿 二 日	七、九四〇	二、三四四	二九、七〇〇	三四一
紅 粘 高 粱	同	五 月 十 六 日	八 月 三 日	九 月 十 三 日	六、九三〇	二、〇六〇	一六、〇〇〇	三三六
黑殼白粘高粱	同	五 月 九 日	八 月 七 日	同	四、二五〇	一、二二三	七六、〇〇〇	三五二

備考 一、前表ハ大正二年度ニ於ケル試驗成績ナリ

二、試驗區ニ於ケル耕種方法ハ在來ノ支那式農法ニヨレリ

3. 粟

當場ニ於テ試験シタル粟ノ品種及其特性左ノ如シ

品 種 名	下種期	發芽期	出穂期	刈取期	一反 子實重量	一石 子實容量	一畝 收穫量	一升 子實重量
窠里穀子	四月廿七日	五月八日	七月廿五日	九月十日	三八七〇	一、二三七	六四、〇〇〇	三三
毛穀子	同	五月九日	同	九月九日	三六、四三〇	一、一七五	五二、〇〇〇	三二〇
大斗黃穀子	同	五月八日	同	九月八日	四四、七五〇	一、三六六	六〇、七五〇	三二八
繩錦穀子	同	同	同	同	四三、九〇〇	一、三九八	六〇、八〇〇	三二四
白沙穀子	同	同	同	同	三五、四八〇	一、二六七	五六、八〇〇	三〇四
紅粘穀子	同	五月九日	同	九月十日	三二、〇五〇	一、〇七五	六四、一〇〇	二九八
青粘穀子	同	同	同	九月十日	三五、九七〇	一、二八四	六〇、八〇〇	二八〇

備考 前同斷

4. 玉蜀黍

當場ニ於テ試験シタル玉蜀黍ノ品種及其特性左ノ如シ

品 種 名	下種期	發芽期	出穂期	刈取期	一反 子實重量	一石 子實容量	一畝 收穫量	一升 子實重量
馬呀包米	四月廿日	五月四日	七月廿四日	九月八日	七、五五〇	一九九二	一四七、八〇〇	三五九
白包米	同	五月六日	七月廿日	同	三、二八〇	八一九	七八七〇〇	三八二

5. 大豆

當場ニ於テ試験シタル大豆ノ品種及其特性左ノ如シ

品 種 名	下種期	發芽期	開花期	刈取期	一反 子實重量	一石 子實容量	一畝 收穫量	一升 子實重量
大金項	四月廿日	五月四日	七月廿四日	九月五日	四九、七八〇	一、三七二	九〇、〇〇〇	三六三
ロングフエロー	同	五月五日	七月五日	八月廿五日	三〇、二三〇	八一九	六七、二〇〇	三六九
フリントホワイ	同	五月六日	同	同	三九、七〇〇	一一六四	六七、四〇〇	三四一
デントコーン	同	五月五日	七月八日	九月五日	二四、〇〇〇	六七二	六七、五〇〇	三五三
備考 前同斷								
大豆								
大黃豆	五月十五日	五月廿八日	七月廿九日	九月卅日	二二、一〇〇	〇、六三〇	五二、二五〇	三五一
小黃豆	同	同	八月二日	九月廿八日	二二、四九〇	〇、五九〇	四三、五〇〇	三六四
白角青	同	同	七月廿九日	九月廿日	二六、〇〇〇	〇、七四五	三八、八〇〇	三四九
鐵角青	同	同	八月二日	九月卅日	二二、九七〇	〇、六二〇	四七、一〇〇	三五四
穀石	同	同	同	九月廿四日	二四、五四〇	〇、七〇七	四七、七〇〇	三四七
大青	同	同	同	九月廿五日	二四、〇〇〇	〇、六七〇	五六、八〇〇	三四八
大黑	同	同	七月卅日	九月廿五日	二〇、四〇〇	〇、五八六	五一、七〇〇	三五三
小黒	同	同	八月三日	九月廿七日	二六、五〇〇	〇、七五〇	五四、四五〇	三五三
圓粒黒	同	同	八月五日	九月卅日	二四、一三〇	〇、六八五	五一、二三〇	三五二
扁粒磨黒	同	同	同	九月廿七日	三〇、七八〇	〇、八六七	五八、八〇〇	三五五

6. 小豆 備考 前同斷

品名	下種期	發芽期	開花期	刈取期	子實重量	子實容量	一畝收量	子實重量
紅小豆	五月廿八日	五月廿八日	八月七日	九月廿三日	七、三〇	〇、一八三	四、六〇〇	三九五
白小豆	同	同	同	同	一、二五〇	〇、二八七	五、二〇〇	三九二
綠小豆	同	五月廿五日	八月一日	同	一九、五〇〇	〇、五〇六	七、三〇〇	三八五
把豆	同	同	同	自九月十日 至九月二十七日	二七、六〇〇	〇、八〇〇	三〇、四〇〇	三四五
漿豆	同	同	同	同	二六、七〇〇	〇、七五六	三六、〇〇〇	三五三

7. 甜菜 備考 前同斷

當場ニ於テ試驗シタル甜菜ノ品種及特性左ノ如シ  
耕種ノ梗概  
整地 播種前一回犁耕ノ後耙及手耙ヲ以テ均整セリ  
畦 巾 一尺五寸  
株 間 七寸—一尺  
播種期 四月廿八日

種子豫措 種子ハ一晝夜間水ニ浸漬シ灰ニ混シテ下種セリ  
播種法 條播  
播種量 一反步當五百匁  
間引 第一回五月十五日 第二回五月卅一日  
除草中耕 第一回五月卅一日 第二回六月十日 第三回六月三十日  
第四回七月二十日 第五回八月七日  
肥料 一反步當ニ對スル施肥量左ノ如シ

肥料名	用量	室	素	三	要	酸	素	加	量
堆肥	一五〇、〇〇〇								〇、七五〇
大豆粕	五〇〇、〇〇〇								〇、〇八〇
過磷酸石灰	三〇〇、〇〇〇								〇、四五〇
人糞	一〇〇、〇〇〇								〇、一三〇
葉灰	五〇〇、〇〇〇								〇、二六〇
計		一、八二五	〇、五七〇						一、三二五

但シ人糞白貫ノ内五十貫ハ補肥トシテ六月三十日ニ施用セリ  
收穫 十一月十一日

品 種 名	下種期	發芽期	收穫期	根 <sup>(最大)</sup> 長	根 <sup>(最大)</sup> 圍	最大一個ノ重量	一反步當收量
赤 色 種	四月廿八日	五月九日	十一月一日	一五三 <sup>cm</sup>	一二元 <sup>cm</sup>	〇、六五〇	七八四〇〇
白 色 種	同	五月八日	同	一三七 <sup>cm</sup>	一、三 <sup>cm</sup>	〇、五二〇	一、〇三六、八〇〇

備考 一、前表ハ大正二年度ニ於ケル試験成績ナリ  
右分析成績

糖 種 名	赤 色 種	白 色 種
根含糖量	一〇、四六%	一四、七四%
蔗 糖	一〇、二四%	一四、五三%
葡 萄 糖	〇、二二%	〇、二一%

8. 牧 草

當場ニ於テ試験シタル牧草ノ品種及其成績左ノ如シ

品 種 名	牧草回数	刈取期	刈取當時ノ草丈	生草量	乾草量	一反步當收量
アルファルファ	第一回牧草	六月九日	二二〇	一六四〇	〇、五六〇	四九二、〇〇〇
同	第二回牧草	七月廿六日	一一〇	〇、四四〇	〇、八七〇	七二、〇〇〇
						一六八、〇〇〇
						二六、一〇〇

備考 一、前表ノ成績ハ大正元年五月一日播種セシモノヲ大正二年ニ於テ刈取レルモノナリ

一、アルファルファ一ノ外數種ノ禾本科牧草及豆科牧草ノ試験ヲ行ヒタルモ未ダ其成績ヲ發表スルノ時期ニ達セズ

丙、樹苗養成部

當場ニ於テ從來養成シツ、アル樹種ハ滿洲産及日本産ノモノニシテ其種類左ノ如シ

一、滿 洲 産

カワヤナギ、ハクヤウ、クリ、オウナラ、ヤマグルミ、トネリコ、クロマツ、サイカチ、シンジュ  
カヘデ、キサ、ギ、キワダ、ハルニレ、ゴシユユ、アンヅ、イヌエンジュ、イテフ、コノテカシハ  
エノキ、ナシ、

一、日 本 産

アメリカカボブラ、トネリコバノカヘデ、ハギ、ニセアカシヤ、テフセンマツ、カラマツ

養苗法ノ梗概

一、播 種

a 床拵 四月上旬表土ヲ深ク耕起シ土塊ヲ細碎シテ幅三尺ノ播床ヲ作成ス床面ハ灌水ニ便センガ爲  
ニ步道面ヨリ一二寸低クセリ、播床ノ肥料トシテハ基肥トシテ堆肥一反步當リ百貫ヲ鋤キ込ミタ  
リ

五〇  
b 播方 種子ノ性狀ニ從テ條播又ハ撒播ヲナシ種子長ノ二三倍ノ厚ニ被土シ坪四百匁ノ割ニテ被藁ヲナセリ被藁ハ發芽前ニ除去シ發芽後ハ適宜間引ヲ行ヒ旱天ノ際ニハ灌水シテ床面ノ乾燥ヲ防グ

二、床 替

春季解氷後苗木ヲ丁寧ニ掘取り其根ヲ適宜ニ切り込ミ乾燥ヲ防グ爲メ濡菰ニテ覆ヒ置キ播種床ト同様ニ作りタル床上ニ苗ノ大小ヲ分チ四寸乃至七寸ノ距離ニテ漸次床換ヲ行フ床替後適宜灌水ヲ行フコト播床ニ同ジ

三、主要管理法

- a 日覆 發芽後日光ノ直射ヲサエギリ床面ノ乾燥ヲ防ガンガ爲ニ「クロマツ」及「テフセンマツ」ニハ日覆ヲ施セリ其裝置ハ北方高サ一尺五寸南方同一尺トシ萱簀ヲ掛クルモノトス日覆期間ハ發芽後ヨリ八月中旬迄ナリ
- b 灌水 當地方ハ春期乾燥甚ダシク爲ニ時々灌水ノ要アルヨリ當場ニ於テハ播種床ニ一個床替地ニ二個ノ井戸ヲ設ケ之ニ支那式馬力揚水機ヲ備付ケテ揚水シ之ヲ灌溉溝ニ導キテ漸次各床面ニ灌水セリ
- c 肥料 基肥トシテハ堆肥及大豆粕ヲ用ユ播種床及挿木床ニノミ施用スルモノニシテ播種床ニハ一

反歩當リ堆肥百貫ヲ施シ挿木床ニハ同大豆粕二十貫ヲ施セリ、  
追肥トシテハ人糞尿、大豆粕、硫酸アムモニア等ヲ用ユ、其用量、播種床ニハ人糞尿一反歩當リ八荷ヲ五倍ノ水ニ稀釋シテ二回ニ分施シ床替地ニハ一部分大豆粕一部分硫酸アムモニアヲ施スモノニシテ大豆粕ハ一反歩當リ二十貫硫酸アムモニアハ六貫トス  
d 除草 除草ハ專ラ支那婦人ヲ使役シ年四回乃至五回之ヲ行ヘリ  
e 防寒 樹苗ニ對スル冬季防寒ノ設備トシテハ一年生松樹ニ對シテノミ之ヲ施シ他ニハ施サズ其裝置ハ床ノ南方ニ高サ一尺五寸位ノ杭ヲ打込ミ之ニ竹ヲ渡シ其上ニ高粱稈ノ四尺内外ニ切斷シタルモノヲ一本並ベニ結付ケ其下部ハ一寸内外土中ニ埋メ強烈ナル北風ヲ防ガシム防寒期間ハ十月中旬ヨリ翌三月下旬迄トス  
f 病害蟲驅除 「ニセアカシヤ」播種床ニ毎年蟬虫ノ發生ヲ見ル甚ダシキ被害ナキモ石油乳劑ニヨリ之ガ驅除ニカメ居レリ又松ノ播種床ニ立枯病ノ發生ヲ見タルヲ以テ直チニ病苗ヲ抜き取り燒却シ床面ニ二斗式ボールド液ヲ散布セシニ蔓延ヲ防ギ得タリ

現在樹苗總數

樹	種	年 齡	本 數	樹	種	年 齡	本 數					
ク	マ	ツ	一年生	五〇、〇〇〇 <sub>本</sub>	コ	ノ	テ	カ	シ	ハ	一年生	二五、〇〇〇 <sub>本</sub>





樹種	年 齡	本 數	樹 種	年 齡	本 數
マツ	二年生	一五、五五〇	アカシヤ	三年生	二、四一五
同	三年生	三八、二〇〇	ボラ	一年生	八八
同	二年生	五、五九〇	同	三年生	二、三八三
同	三年生	五、九〇七	トリホモバノカヘテ	一年生	三、七七五
ハギ	一年生	三八、七九〇	同	二年生	七、四〇九
カヘデ	同	三、四〇〇	イヌエンジュ	同	一七二
同	二年生	一、〇三二	キサ、ギ	一年生	四、六〇〇
ニレ	一年生	四〇、〇三八	同	二年生	三、九〇四
同	二年生	一八、四八八	クルマムトマム	一年生	三、九〇〇
ヤナギ	一年生	二、五〇〇	同	二年生	一一、〇四二
同	二年生	三〇〇	ボラ	一年生	一五、三九〇
同	三年生	四一〇	トネリコ	同	二、七五〇
同	一年生	二二、四〇〇	ゴシュユ	同	三、五〇〇
コノテカシワ	三年生	一〇、五二八	ウツギ	四年生	一〇〇
同	一年生	八、三〇〇	クミ	同	二〇
アカシヤ	二年生	一二、九二九	合 計		二八六、八一〇

丁、調査及講習

一、調査 關東洲及滿鐵沿線各地ニ於ケル果樹栽培ノ狀況並ニ果實ノ輸入狀況ヲ明カニスルコトハ將來當場ニ於ケル試驗ノ方針ヲ定ムル上ニ甚ダ必要ナルヨリ大正二年十一月特ニ職員二名ヲ各地ニ派シ之カ調査ニ著手セシメタリ

二、講習 當場附近ノ果樹栽培者ニ對シ指導獎勵ノ第一歩トシテ果樹栽培ニ關スル方針及方法等ニ就キ講習會開催ノ必要ヲ認メ當場職員ヲシテ大正二年十一月八日ヨリ一週間之ガ講習ヲ行ハシメタリ其内容左ノ如シ

- 一、果樹栽培ノ方針
- 二、梨樹栽培法

- 1. 梨樹ノ繁殖
- 2. 梨樹ノ剪定
- 3. 梨樹ノ栽植
- 4. 梨樹品種ノ撰擇
- 5. 梨園ノ管理
- 6. 實地演習

三、稻作委託試驗

滿洲北部ノ如キ比較的寒冷ナル地方ニ於ケル稻作ノ成否ハ主トシテ水稻品種ノ撰擇如何ニアルヨリ産業試驗場ハ日本内地、北海道及朝鮮等ノ各地ヨリ早生水稻數種ヲ輸入シ撫順、鐵嶺、奉天及五龍背ノ篤農家ニ之ガ試作ヲ委託シ産業試驗場ニ於ケル成績ト相俟テ滿洲各地ノ氣候風土ニ適合スベキ良品種ヲ撰擇セントセリ、大正二年度ニ於ケル其試驗成績ノ概要左ノ如シ

一、試驗地土質及灌溉狀況

奉天 粘質壤土、井水機械灌溉  
 撫順 粘質壤土、炭坑々内水自然灌溉  
 鐵嶺 砂質壤土、井水機械灌溉  
 五龍背 砂質壤土、河水自然灌溉

一、耕種ノ期日

播種 奉天 五月十三日 鐵嶺 五月六日  
 撫順 五月二日 五龍背 五月五日  
 插秧 奉天 六月二十二日 鐵嶺 六月二十日  
 撫順 六月十九日 五龍背 六月十九日  
 收穫 奉天 八月三十日ヨリ九月十日 鐵嶺 九月十日ヨリ十月三日  
 撫順 九月九日ヨリ九月二十五日 五龍背 九月十九日ヨリ十月十九日

一、供試品種

日本内地種 保村、關山、福島、出雲  
 北海道種 札幌赤毛  
 朝鮮種 正租

一、試驗成績

試驗品種	奉天			撫順			鐵嶺			五龍背		
	收量	品質	至成熟日數	收量	品質	至成熟日數	收量	品質	至成熟日數	收量	品質	至成熟日數
保村	2100	上	150	2100	上	140	2100	下	150	2100	下	160
關山	1800	上	150	1800	上	140	1800	中	140	1800	中	150
福島	1800	上	150	1800	上	140	1800	中	140	1800	中	150
出雲	1800	中	150	1800	上	140	1800	中	140	1800	中	150
札幌赤毛	1800	上	150	1800	上	140	1800	中	140	1800	上	150
正租	2100	上	150	2100	上	140	2100	中	140	2100	上	150

以上ノ成績ニヨリ收量及成熟ニ要セシ日數ヨリ見レバ

日本内地種中 關山ハ奉天撫順ニ於テ成熟ニ一四六日乃至一五〇日ヲ要シ又福島ハ奉天ニ於テ一五〇日ヲ以テ成熟シ何レモ一石五斗以上ノ收量ヲ擧グ得タリト難モ各地ヲ通シテ完全ニ成熟セズ  
 札幌赤毛種ハ收量一石五斗ニ滿タザリシ箇處アリシモ各地共完全ニ成熟シ且ツ其成熟ヲ要セシ日數ハ最モ短ク一〇一日乃至一二六日ナリキ  
 朝鮮種正租ハ奉天撫順ニ於テ其收量二石以上ニ達シ且各地共完全ニ成熟シタルモ其成熟ニ要セシ日數ハ最モ長ク一三〇日乃至一六八日ナリシヨリ未ダ奉天以北ニテハ安全ナル品種ト認メ難シ

四、地方沿線經理係所屬苗圃

1. 大連 苗圃

a 常盤橋苗圃 當苗圃ハ明治四拾二年ノ開設ニカ、リ當初其面積一町五反歩ニ過ギザリシガ漸次其區域ヲ擴張シ現在三町三反五畝拾歩ヲ有ス主トシテ關東州内各驛附屬地ノ植樹ニ要スル樹苗ノ養成及大連ニ於ケル本社々宅附近ニ要スル樹苗ノ養成及之ガ配布ヲ行ヒ來レリ

現在樹苗總數

樹種	年齡	本數	樹種	年齡	本數
ポプラ	至一年生	三、九四三	フデ	五年生	九〇八
アカシヤ	至二年生	一、四六〇	ハルビン産カヘデ	四年生	五五
シロムシユ	至三年生	四、三八二	ギヨリ	同	三九二
クロムツバ	至四年生	七、〇〇〇	クミ	二年生	二二
ゴシユ	至五年生	一、三六二	イタル	同	一一〇
カヘ	至六年生	一、三一四	キミ	至四年生	六五〇
マツ	至七年生	二、〇〇〇	グミ	四年生	一、〇五七
ニレ	至八年生	一、四〇一	クナ	至二年生	一、五八〇
ネ	至九年生	一、〇一八	クナ	至四年生	七一九
トネ	至十年生	二、五〇〇	エボ	二年生	四〇〇
コノチガシ	至十一年生	六、二五〇	ナツム	三年生	三〇〇

樹種	年齡	本數	樹種	年齡	本數
サカチ	至三年生	一、七八〇	ハナザクラ	三年生	一〇〇
サクラ	至四年生	三〇五	ユスラム	同	一五
コウゾ	至五年生	一、六三	サニウツギ	同	六〇
ウシ	至六年生	三三〇	タニウツギ	同	一五
コガネヒノキ	至七年生	五九	合計		三三九、六三〇
クジャクヒノキ	同	四八	梨樹		
マルカシハ	五年生	二〇	梨木	四年生	一、四九八
ヒノキ	五年生	二七	桃	至三年生	一一九
ハナヅリ	三年生	一、六〇〇	梨	至四年生	一六四
ホワイトエルム	同	四二〇	梨	至五年生	一九一
カタバ	同	三七	葡萄	至五年生	一、九一三
ツバ	同	一〇	合計		三、七〇四
バ	同	二〇〇	樹苗總計		三四三、三三四
ア	同	四〇			

b 沙河口苗圃 關東州内各驛及大連社宅附近ノ植樹ニ要スル樹苗ノ需要ハ年ト共ニ増加スルモ常盤橋苗圃ハ地位ノ關係上擴張スルコト能ハザルヨリ大正二年度ニ於テ新ニ沙河口ニ地ヲ求メ當苗圃ヲ開設シタル其現在面積ハ四町五反七畝十二歩トス

現在樹苗總數

樹種	樹種	樹種
シン	ジュ	ユ
計	四年生	
		本
		數
		一三、六〇〇 <sub>本</sub>
		一三、六〇〇
		一三、六〇〇

北大山通苗圃 當苗圃ハ明治四十四年ニ開設セラレ専ラ公園及社宅庭園ノ栽植ニ充ツヘキ草花ノ養成及配布ヲ行ヒ來レリ  
其現在面積ハ一反八畝歩ナリ

2. 瓦房店苗圃

當苗圃ハ明治四拾壹年ノ開設ニシテ當初ノ面積僅カニ六百坪ナリシガ其後漸次擴張シテ現今三町三反三畝拾歩ヲ有ス主トシテ熊岳城及常盤橋ニテ養成セル一、二年生ノ樹苗ヲ假植シ將來管内各驛附屬地ニ定植用トシテ配給スベキ樹苗ヲ養成セリ

樹種	樹種	樹種
アカシヤ	ラクヨウショウ	レ
年	年	年
齡	齡	齡
本	本	本
數	數	數
一、五五〇	五、五七〇 <sub>本</sub>	九斗播種
四、〇〇〇		

現在樹苗數

セキヨウジュ	二五	ア	二	二〇
コリヤナギ	一〇〇	ハ	同	一〇〇
カタタルバ	一、四三〇	コノテカシハ	四年生	一九、〇〇〇
カヘギ	七、九九〇	ボ	一年生	二、〇〇〇
ヤナギ	二四〇	同	二年生	二、〇〇〇
イヌエンジュ	一七	同	一年生	五、五〇〇
サイカチ	三七〇	同	三年生	六、〇〇〇
クルマトム	三五〇	同	一年生	五、三〇〇
コウゾ	八	トネリコバノカヘテ	同	不詳
マツ	不詳	合		六一、五八七
キ	一七	計		

3. 大石橋苗圃

當苗圃ハ大正二年四月ノ開設ニ屬シ現在面積壹町歩ヲ有ス其目的及作業方針瓦房店苗圃ニ同シ

現在樹苗數

樹種	樹種	樹種
マツ	ツ	ギ
年	年	年
齡	齡	齡
本	本	本
數	數	數
二五〇 <sub>本</sub>	八〇〇 <sub>本</sub>	一二〇
六〇〇		



樹種	年 齡	本 數	樹種	年 齡	本 數
コノテカシワ	同	六〇〇	合 計		二二、一五〇
マシ	同	五〇〇	トネリコ	同	二六〇
ニシ	同	二〇〇	カヘ	同	四〇〇
ハク	三年生	三〇〇	カタル	同	五〇〇
ボク	二年生	五、五〇〇	クルマム	同	一、〇〇〇
ヤナ	同	一、二〇〇	ハギ	同	一、六〇〇
カタ	同	四〇〇	ニギレ	二年生	二、六〇〇
アセルネクンド	三年生	五〇〇	ヤナ	同	一、〇〇〇
アカシ	四年生	五〇〇	ハク	初年生	二、〇〇〇
ハギ	同	八〇〇	クワ	三年生	二〇〇
ニギレ	同	八五〇	バウ	四年生	一〇〇
同	同	一、五〇〇	ギヨ	同	八〇〇
ボク	六年生	三〇〇	ナユ	二年生	五〇〇
同	三年生	一、五〇〇	合 計		

6. 鐵嶺苗圃

當苗圃モ大正元年ノ開設ニシテ現在面積約五町歩ヲ有ス樹苗養成ニ關スル目的及作業方針奉天苗圃ト同シ

現在樹苗數

樹種	年 齡	本 數	樹種	年 齡	本 數
ニレ	三年生	五〇〇	カヘ	二年生	五〇〇
同	二年生	五〇〇	トネリコ	同	二〇〇
ボク	三年生	五〇〇	アカシ	同	五〇〇
同	二年生	二、五〇〇	ブド	同	一四〇
同	三年生	五四〇	クロマム	二年生	一〇、〇〇〇
トネリコ	二年生	二〇〇	ハク	同	三六〇
カタ	同	三〇〇	同	木挿初年生	一、〇〇〇
カタル	二年生	八〇〇	同	木挿初年生	一、〇〇〇
シ	四年生	四七〇	同	木挿初年生	三、〇〇〇
同	二年生	一、〇〇〇	合 計		二四、〇七二
マシ	三年生	一、〇三八			

7. 長春苗圃

當苗圃モ明治四十五年(大正元年)四月ノ創設ニシテ現在面積拾五町四反歩ヲ有ス樹苗養成ニ關スル目的及作業方針ハ鐵嶺苗圃ト同様ナリ是ヨリ前當苗圃ニ於テハ明治四十二年以來長春農園ノ名ノ下ニ簡單ナル農事試験ヲ行ヒ來レルモ其成績ハ未ダ發表スルニ足ルモノ無シ

現在樹苗數

樹種	年 齡	本 數	樹種	年 齡	本 數
ニレ	二年生	一一、一三〇	ハギ	二年生	二、五〇〇
シユ	同	九四〇	ヤギ	三年生	六二〇
カタル	同	四八二	カデ	同	四五〇
カヘ	同	一、五〇〇	ハギ	同	八三〇
ネク	同	七〇〇	シユ	同	七八八
トネ	同	三、五〇〇	ハク	同	四八〇
トネ	三年生	二七	ハク	同	一、七〇〇
ヤギ	五年生	二八〇	ハク	二年生	一、〇〇〇
ハク	同	六二五	ニレ	實生	一、〇〇〇
ハク	二年生	一、二七五	合 計		四六、七二七
ヤギ	一年生	五、九〇〇			

8. 本溪湖苗圃

當苗圃ハ大正元年ノ創設ニシテ現在面積四反歩トス其樹苗養成ニ關スル目的及作業方針ハ他ノ經理係所屬苗圃ト同様ナリ

現在樹苗數

樹種	年 齡	本 數	樹種	年 齡	本 數
アカシヤ	四年生	七五 <sub>本</sub>	コノデガシワ	四年生	五五〇 <sub>本</sub>
同	三年生	二、一三二	同	二年生	四二〇
ハク	五年生	四六	マツ	四年生	一三、二四〇
ボク	四年生	四〇	トネ	二年生	四三九
同	三年生	一、一六五	カタル	同	一〇〇
ニレ	四年生	九四一	シユ	四年生	九七七
同	二年生	三、九六〇	同	三年生	二七〇
キダ	同	一三五	ボク	挿木	未調
ヤナ	挿木	未調	合 計		一四、四九〇

9. 安東苗圃

當苗圃モ大正元年ノ創設ニカ、リ其現在面積三町一反六畝二十歩ナリ樹苗養成ニ關スル目的及作業方針ハ他ノ經理係所屬苗圃ト同様ナリ

現在樹苗

樹種	年 齡	本 數	樹種	年 齡	本 數
ニレ	三年生	二、九〇〇 <sub>本</sub>	ニレ	一年生	四、九五〇 <sub>本</sub>



ボ ブ ラ	三年生	一、三三〇	カ タ ル バ	同	一、八〇〇
コ ノ テ カ シ ワ	四年生	二、〇〇〇	シ ン ジ ユ	二 年 生	二、八五〇
同	一年生	一六、〇〇〇	ハ ギ	三 年 生	六〇〇
ア カ シ ヤ	一年生	一、八〇〇	同	一 年 生	六、三〇〇
ボ ブ ラ	一年生	七、九八〇	キ ユ	四 年 生	一、一〇〇
ア カ シ ヤ	三年生	一七〇	ゴ シ ユ	一 年 生	一、八〇〇
同	二年生	一、五三〇	マ ツ	同	五、六〇〇
同	一年生	一、八〇〇	合 計	同	一〇九、九二〇

産業試験場及各苗圃現在樹苗總數(大正二年六月末日調)

場	所	樹苗數	場	所	樹苗數
産業試験場公主嶺本場		五、八八五	奉 天	苗圃	二、三一五
同 熊岳城分場		六四六、八八〇	鐵 嶺	苗圃	二四、〇七二
大 連	苗圃	三五六、九三四	長 春	苗圃	四六、七二七
瓦 房 店	苗圃	六一、五八七	本 溪	苗圃	一四、四九〇
大 石 橋	苗圃	一二、〇六七	安 東	苗圃	一〇九、九二〇
遼 陽	苗圃	四〇、六三八	總 計		一、三四二、三五〇

五、植 樹

南滿洲一帶ノ山野ハ多年土民濫伐ノ結果看ルベキノ樹林少ナク本社鐵道沿線ノ各地モ亦滿目蕭寥ヲ極ム、是ヲ以テ附屬地道路、公園、宿舍地、驛構内及墓地等ニ植樹スルハ最緊要ノ事ナリトシ會社ハ明治四拾二年熊岳城、常盤橋等ニ苗圃ヲ創設シテ將來各地ニ配給スベキ樹苗ノ養成ニカムルト共ニ一方明治四拾壹年以來明治四拾叁年迄ニ、ニセアカシヤ、白楊及其他ノ樹苗拾五萬本ヲ購入シテ以上ノ場處ニ植付ケタリ、而シテ明治四拾四年以降ハ會社所屬ノ苗圃ニ於テ育成セル樹苗ヲ主トシ不足分ヲ他ヨリ購入補充シテ各地ノ植樹ヲ續行シ來レリ其樹種及經理係管區別植付本數左ノ如シ

一、樹 種

ボブラ、アカシヤ、ニレ、シンジユ、トネリコ、ネクンドカヘデ、シダレヤナギ、ハギ、クロマム  
トマム、マツ、カタルバ、イヌエンジユ、コノテカシハ、カヘデ、ハクヨウ、ヤナギ、モ、ラク  
ヨウシヨウ、アンヅ、ユスラムメ、ブドウ、サクラ、バラ、ウツギ、ツ、ジ、フヂ、モミ、

一、經理係管區別植付本數

場 別 所	明治四拾四年	大正元年	大正二年	計	摘 要
大連及直轄各驛	二三、〇一〇 <sup>本</sup>	三五、八七五 <sup>本</sup>	五九、九五九 <sup>本</sup>	一一八、八四四 <sup>本</sup>	沙河口及七星ヶ浦ヲ含ム
瓦房店經理係管内	一〇、〇〇〇	六、七七〇	四〇、七四八	五七、五一八	
大石橋經理係管内	一〇、七六五	九、五五六	九、五三二	二九、八五三	

遼陽經理係管内	九、八九〇	一一、二三〇	一四、六九〇	三五、八一〇
奉天經理係管内	一〇、〇〇〇	二四、四四五	一〇、〇一八	四四、四六三
鐵嶺經理係管内	二一、三〇〇	一〇、二三八	二〇、四四〇	五一、九七八
公主嶺經理係管内	八、〇〇〇	六、七〇〇	一三、〇九六	二七、七九六
長春經理係管内	六、五九五	一一、一八〇	二四、五〇四	四二、二七九
本溪湖經理係管内		三、〇四〇	八、二五二	一一、二九二
安東經理係管内	一七、〇〇〇	八、二五九	九七、二四二	一一二、五〇一
計	一一六、五六〇	一二七、二九三	二九八、四八一	五四二、三三四

第八章 本社産業關係職員

産業試驗場々長	柄内 壬五郎 (地方課在勤)
産業試驗場主事(兼)	神田 勝亥 (公主嶺在勤)
	鈴木 力治 (地方課在勤)
	大河 平隆 (公主嶺在勤)
	駒井 德三 (地方課在勤)
	藤田 喜代作 (地方課在勤)

産業試驗場分場主任

伊藤 昇 (公主嶺在勤)	奧井 博治 (地方課在勤)	松島 鑑二 (公主嶺在勤)	香村 岱藏 (熊岳城在勤)	渡邊 柳藏 (熊岳城在勤)	四方 直藏 (熊岳城在勤)	大橋 敏藏 (公主嶺在勤)	稻田 實弘 (熊岳城分場在勤)	松原 弘 (地方課在勤)	三好 彦 (公主嶺在勤)	大重 篤 (公主嶺在勤)	齋藤 謙太郎 (熊岳城在勤)	清水 清一郎 (熊岳城在勤)	藤原 賢一 (熊岳城在勤)	西川 高治 (熊岳城在勤)
--------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	-----------------	--------------	--------------	--------------	----------------	----------------	---------------	---------------

14.29  
310

囑託 農學博士 橋本左五郎  
高島 實 (公主嶺在勤)

14.2  
310

終